



きまりをまもる こころを育てる

— 幼児期の「規範意識の芽生え」の醸成 指導資料 —

平成26年3月

東京都教育委員会

は じ め に

東京都教育庁

指導部長 金子 一彦

人と人との尊重し合い、協調して社会生活を営んでいくためには、守らなくてはならない社会の決まりがあります。幼児は、初めからそうした決まりを守ることができるわけではなく、生まれてからの生活の中で、人の思いやりや優しさに触れるなどの様々な体験を通して、生涯にわたる「規範意識」の基礎が培われるものと考えます。

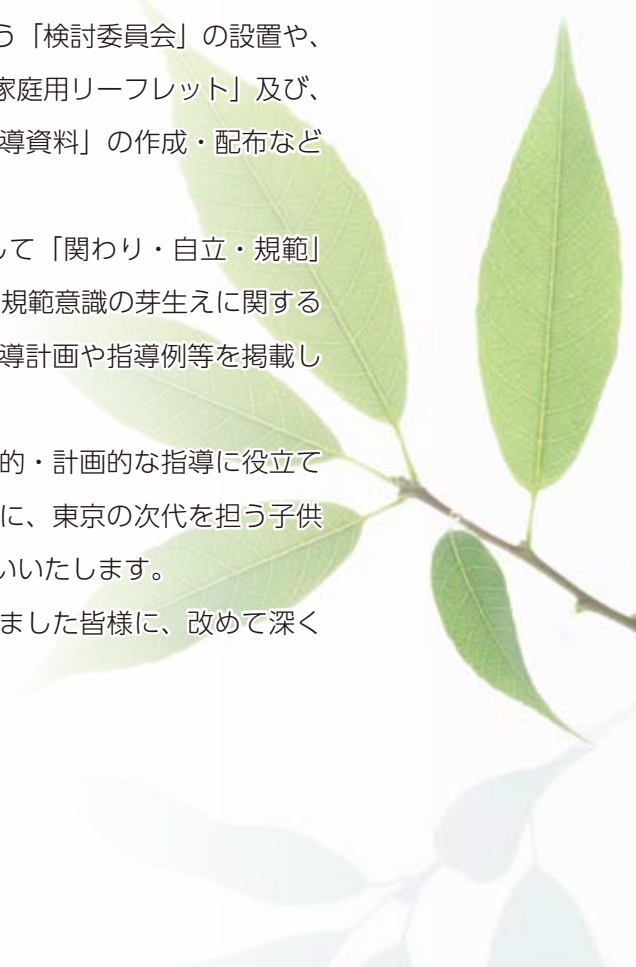
学校教育法においては、幼稚園教育の目標の一つとして、「集団生活を通じて、喜んでこれに参加する態度を養うとともに家族や身近な人への信頼感を深め、自主、自律及び協同の精神並びに規範意識の芽生えを養うこと」と明記されています。この目標の実現に向けては、就学前教育施設における、家庭への働き掛けを含めた指導の一層の充実が望まれます。

そこで、東京都教育委員会では、「幼児期の『規範意識の芽生え』の醸成」を平成25年度の重要な施策とし、保育・教育関係者、保護者、地域関係者、行政関係者など様々な立場から幼児の規範意識に関して検討を行う「検討委員会」の設置や、家庭における幼児の規範意識の芽生えの醸成に関する「家庭用リーフレット」及び、就学前教育施設における保育・教育の充実に資する「指導資料」の作成・配布などの事業を展開してきました。

本指導資料には「規範意識の芽生え」を培う視点として「関わり・自立・規範」を設定し、この三つの視点に基づき、0歳児から5歳児の規範意識の芽生えに関する発達の道筋と大人の関わり及び、3歳児から5歳児の指導計画や指導例等を掲載しています。

就学前教育施設におかれましては、本指導資料を意図的・計画的な指導に役立てていただき、各園の保育・教育の質の向上を図るとともに、東京の次代を担う子供たちの「規範意識の芽生え」を培っていただくようお願いいたします。

結びに、本指導資料の作成に当たり、御尽力いただきました皆様に、改めて深く感謝申し上げます。



目 次

- ◇ はじめに
- ◇ 目 次

第1章 幼児期の「規範意識の芽生え」について

1 幼児期の「規範意識」とは	6
（1）幼児期の教育における「規範意識」の位置付け	6
（2）幼児の「規範意識」に関する大人の意識	7
2 本指導資料における「規範意識」の考え方	7
（1）「規範意識」「規範意識の芽生え」の捉え	7
（2）「規範意識の芽生え」の発達	8
3 「規範意識の芽生え」を培う視点について	8
（1）「規範意識の芽生え」を培う視点の整理	8
（2）「規範意識の芽生え」を培うために幼児に経験させたい内容	9
4 「規範意識の芽生え」に関する発達の道筋及び大人の関わり	10
（1）おおむね6か月未満～おおむね3歳	11
（2）3歳児～5歳児	13

第2章 「規範意識の芽生え」を培う指導計画

◇ 指導計画の構成及び見方	16
◇ 3歳児前期（4月～10月頃）	18
◇ 3歳児後期（11月頃～3月）	22
◇ 使ってみませんか？〈資料等〉 家庭での取組を一緒に考える／保護者同士のつながりを結ぶ	26
◇ 4歳児前期（4月～10月頃）	28
◇ 4歳児後期（11月頃～3月）	32
◇ 使ってみませんか？〈資料等〉 安全指導の工夫	36
◇ 5歳児前期（4月～10月頃）	38
◇ 5歳児後期（11月頃～3月）	42
◇ 使ってみませんか？〈資料等〉 「育てよう規範意識の芽」リーフレット／子供と一緒に、ひとこと	46

第3章 関係機関等との連携

◇ 小学校への接続	50
◇ 子育ての支援を推進するために	52
◇ 東京都の取組	53

《参考》

◇ 家庭用リーフレット「きまりをまもる ころを育てる」	55
◇ 就学前教育に関する資料	59

あんな場面 こんな場面（指導例）一覧

〈3歳児〉		
前 期	「一人ひとりの楽しみ方で」 「気分は運転手さん」	（3歳児 4月） （3歳児 9月）
後 期	「ルールを感じながら、繰り返し楽しむ」 「次の活動を楽しみに、すすんで行動する」	（3歳児11月） （3歳児 3月）
〈4歳児〉		
前 期	「それぞれのやりたいこと」 「必要を感じて、ルールを決める」	（4歳児 6月） （4歳児 9月）
後 期	「自分の気持ちと向き合う」 「危険なことに気付いて行動する」	（4歳児11月） （4歳児 2月）
〈5歳児〉		
前 期	「遊びが進まない場面を乗り越える」 「自分たちで生活の決まりを考える」	（5歳児 6月） （5歳児 9月）
後 期	「一人ひとりのよさをクラスに広げる」 「一人の気付きをクラスの取組につなげる」	（5歳児11月） （5歳児 1月）



第1章

幼児期の「規範意識の芽生え」 について



1 幼児期の「規範意識」とは

(1) 幼児期の教育における「規範意識」の位置付け

人の一生において、乳幼児期は、心情、意欲、態度、基本的な生活習慣など、生涯にわたる人間形成の基礎が培われる極めて重要な時期です。乳幼児期の子供は、生活や遊びにおける直接的・具体的な体験を通して情緒的・知的な発達や社会性を涵養し、人間として、社会の一員としてよりよく生きるための基礎を獲得していきます。

その中で、「規範意識」はどのように位置付けられているのでしょうか。学校教育法、保育所保育指針及び幼稚園教育要領においては、次のように示されています。

【学校教育法】

○ 第三章 幼稚園

第二十三条 幼稚園における教育は、前条に規定する目的を実現するため、次に掲げる目標を達成するよう行われるものとする。

- 二 集団生活を通じて、喜んでこれに参加する態度を養うとともに家族や身近な人への信頼感を深め、自主、自律及び協同の精神並びに規範意識の芽生えを養うこと。

【保育所保育指針】（平成20年3月告示）

○ 第三章 保育の内容

2 保育の実施上の配慮事項

(四) 三歳以上児の保育に関わる配慮事項

- オ 生活や遊びを通して、決まりがあることの大切さに気付き、自ら判断して行動できるよう配慮すること。

【幼稚園教育要領】（平成20年3月告示）

○ 第2章 ねらい及び内容

人とのかかわりに関する領域「人間関係」

3 内容の取扱い

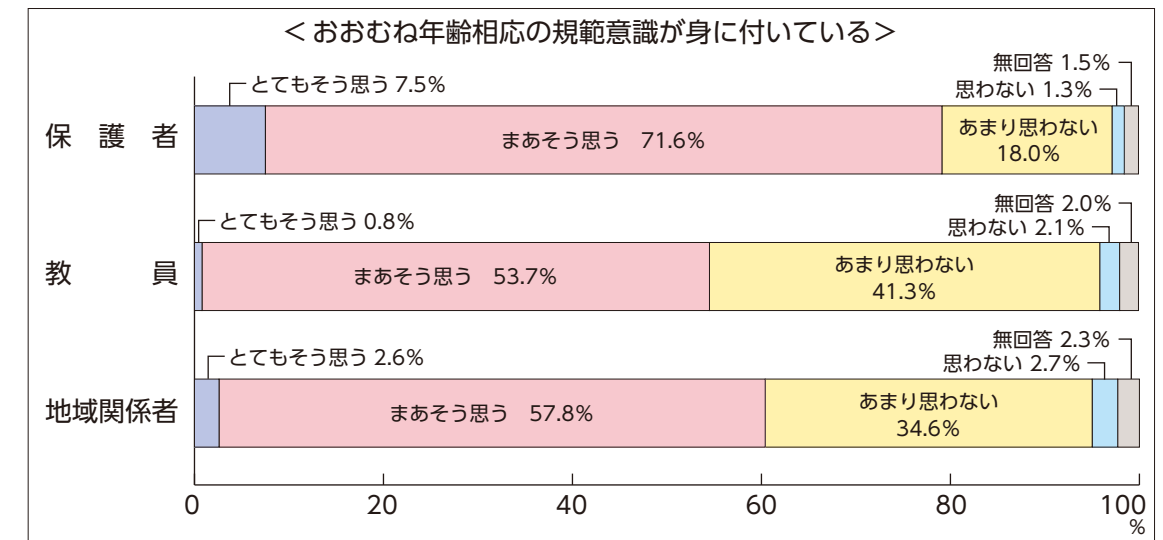
- (5) 集団の生活を通して、幼児が人とのかかわりを深め、規範意識の芽生えが培われることを考慮し、幼児が教師との信頼関係に支えられて自己を発揮する中で、互いに思いを主張し、折り合いを付ける体験をし、きまりの必要性などに気付き、自分の気持ちを調整する力が育つようにすること。

人と人々が尊重し合い、協調して社会生活を営んでいくためには、守らなくてはならない社会の決まりがあります。幼児は、初めからそうした決まりを守ることができるわけではありません。また、集団行動の訓練のように画一的に指導し、守らせさえすればよいということでもありません。幼児自身が、集団生活や友達との遊びの中で様々な決まりがあることに気付き、決まりの必要性やその意味を幼児なりに理解した上で、守ろうとする気持ちをもつことが大切です。

(2) 幼児の「規範意識」に関する大人の意識

平成21年に全国国公立幼稚園長会が行った調査において、「幼児におおむね年齢相応の規範意識が身に付いている」の項目について、「とてもそう思う」「まあそう思う」と回答した保護者は、79.1%、教員は54.5%、地域関係者は60.4%という結果でした。幼児の規範意識について、保護者と教員や地域関係者との間に意識の差があることが分かります。

幼児の規範意識を培うためには、家庭と連携を図り、幼児にとって必要なことを共に考えながら、幼児の経験を積み重ねていく必要があります。



「子どもの心によりそい、規範意識の芽生えを培うプログラムに関する調査研究報告書」
(平成22年3月 全国国公立幼稚園長会) から

2 本指導資料における「規範意識」の考え方

(1) 「規範意識」「規範意識の芽生え」の捉え

本指導資料においては、「規範意識」及び「規範意識の芽生え」を次のように捉えています。

規範意識とは

法令などの社会のルールの大切さを理解し、それらを守ろうとする意識

規範意識の芽生えとは

幼児が、人や物など周囲の環境と関わる中で、互いに気持ちよく過ごすために、感じ、考えて自分の気持ちや行動を調整（コントロール）しようとする心の働き

（2）「規範意識の芽生え」の発達

幼児期は、他律から自律へと向かう時期です。始めは、大人の言うことが正しく、大人に言われたから、叱られるから従うという傾向があります。幼児は家庭や就学前教育施設での様々な経験を通して、徐々に自分で考えて行動するようになっていきます。大人は幼児の「規範意識の芽生え」の発達の状況を的確に捉えて関わるのが大切です。

《「規範意識の芽生え」の発達と大人の関わり》



- * 上段が幼児の発達、下段が大人の関わりを示しています。
- * 発達には個人差があること、場面や状況によって行きつ戻りつしながら発達することに留意します。
- * 発達に応じて幼児に気付かせていくことと同時に、大きな事故につながる危険な行為や、人を傷付ける言葉や行動などについては、毅然とした態度で接し、教えることが大切です。

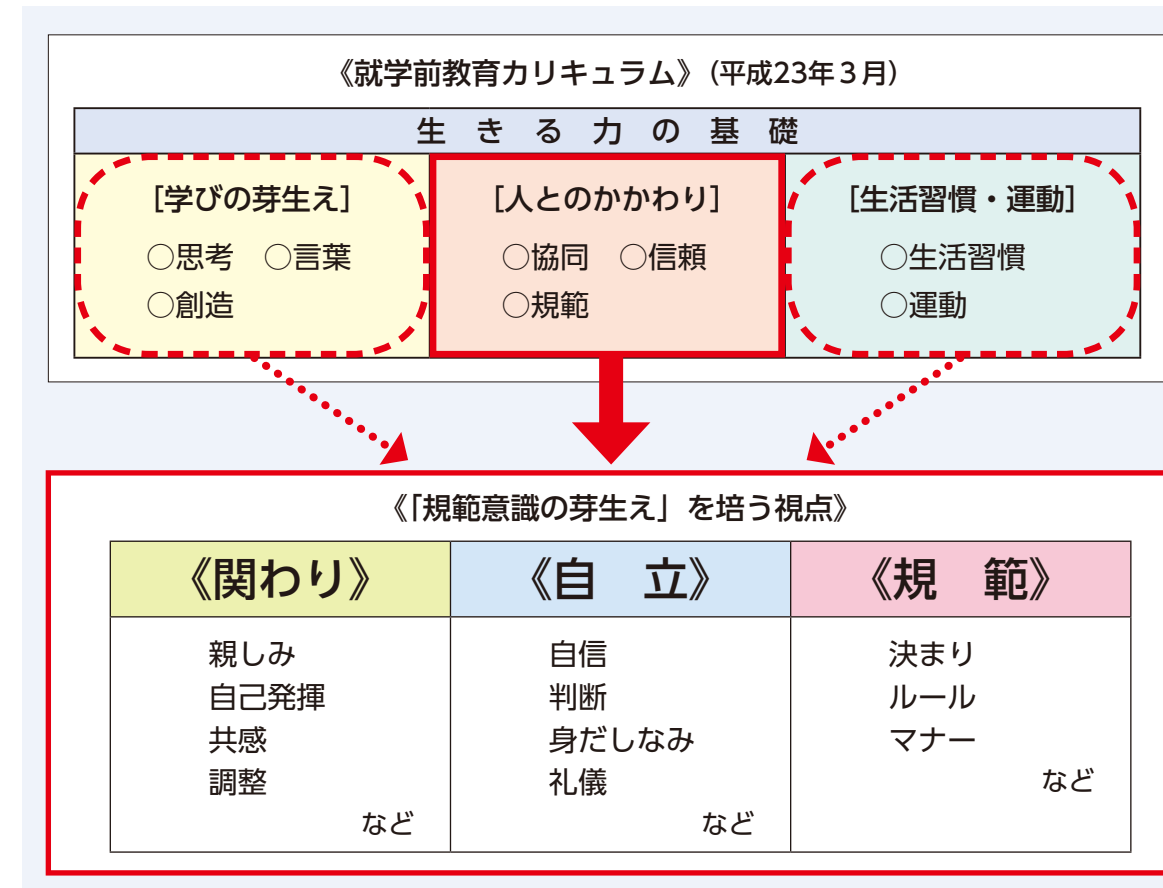
3 「規範意識の芽生え」を培う視点について

（1）「規範意識の芽生え」を培う視点の整理

保育所保育指針、幼稚園教育要領に示されているように、幼児期の規範意識の芽生えは、保育者や友達等との関わりの中で培われます。そのため、本指導資料の「指導計画」は、就学前教育カリキュラム（平成23年3月）の内容を踏まえながら、「生きる力の基礎」の要素の一つである「人とかかわり」を中心に作成しました。

更に、これまでの都教育委員会における研究等を参考にするとともに、現在の幼児の様子や保育の状況などを考え合わせて、規範意識の芽生えを培う視点を「関わり・自立・規範」に整理しました。

《「規範意識の芽生え」を培う視点》



（2）「規範意識の芽生え」を培うために幼児に経験させたい内容

「規範意識の芽生え」を培うために、幼児に経験させたい内容を、次のように設定しました。

《関わり》 親しみ 自己発揮 共感 調整 など	・ 人に対する信頼感や思いやりの気持ちをもつこと ・ 自分の力を出しながら、他の幼児と共に活動する楽しさを味わうこと ・ 相手を尊重する気持ちをもって行動すること ・ 自分の気持ちを調整すること
《自 立》 自信 判断 身だしなみ 礼儀 など	・ 自信をもって行動すること ・ よいことや悪いことに気付き、考えながら行動すること ・ 自分でできることは自分でしようとする ・ その場に応じた言葉を使ったり、挨拶をしたりすること
《規 範》 決まり ルール マナー など	・ 生活に必要な約束やルールを身に付けること ・ 安全に気を付けて行動しようとする ・ 周囲の状況を感じ取り、その場に応じて行動しようとする

4 「規範意識の芽生え」に関する発達の道筋及び大人の関わり

「規範意識の芽生え」を培う三つの視点【関わり・自立・規範】に基づき、おおむね6か月未満から5歳児の「発達の道筋」と、発達に応じた「大人の関わりで大切にしたいこと」を明らかにしました。

内容は主に保育者向けに記述していますが、保護者や地域の方等、それぞれの立場で活用していただけるよう、「大人の」関わりと表記しています。

(1) おおむね6か月未満～おおむね3歳

視 点	おおむね6か月未満 情緒の安定のために、 愛情をたっぷりと	おおむね6か月から1歳3か月未満 温かい応答で、 心地よいコミュニケーションを	おおむね1歳3か月から2歳未満 新しい行動は、 大人の「まねっこ」から	おおむね2歳 「いや!」「じぶんで!」は 成長の証 余裕をもった関わりを	おおむね3歳 「やってみよう!」 「やったらできた!」 満足感を大切に
《関わり》 親しみ 自己発揮 共感 調整 など	○落ち着いた雰囲気の中で、抱く、あやす、語り掛けるなどをしてもらうことで、安定した気持ちと喜びを味わう。	○大人と視線を合わせ、表情や喃語などを通してやり取りを喜ぶ。 ○大人の語り掛けや働き掛けに、声を出したり、応えようとする。	○生活や遊びの中で大人を仲立ちとして、簡単な単語や物のやり取りをする。 ○大人と離れ合ったり、話をしたりすることを通じて気持ちを伝える。 ○思い通りにいかないときに、自分本位の行動が目立つ。 ・他の子供に対して、かみついたり、ひっかいたりすることがある。	○一人遊びを楽しみながら、大人の仲介により、同年齢の子供にも関心をもって遊ぶ。 ・思い通りにいかないときはかんしゃくを起こしたり、頑固な行動を取ったりする。 ○褒められたり、感謝されたりすることを喜ぶ。	○平行遊びだが、同年齢の子供と少しの間一緒に遊ぶ。 ○同年齢の子供との玩具の取り合いや気持ちのぶつかり合いなどの中で、大人の仲介により、相手の意を知る。 ○大人に褒めてもらうことを喜び、頑張ろうとする。
《自立》 自信 判断 身だしなみ 礼儀 など	○声や泣き声、ほほえみなどで自分の欲求を表し、なめられたり、受け入れてもらったりすることで安心する。	○心地よいときは笑ったり、ほほえんだりし、不快なときは泣いたりして気持ちを伝える。 ○大人 ○大人の表情を読み取ろうとしたり、大人の言うことをほぼ理解したりする。 ○衣服の着脱など、身の回りのことに関わるようになる。 ・服を着せるとき、自分から袖に腕を通したり、パンツに足を通したりする。	○「～したい」「～がほしい」という思いが強まり、身近な大人に要求する。 ○「いい」「わるい」という言葉を使い、自分の意を主張したりする。 ○自分の物、人の物の区別がつく。	○大人や同年齢の子供と、自分なりの言葉でしゃべりをする。 ○よいこと、いけないことが分かってくる。 ○大人に援助されながら、自分のことを自分でしようとする。	○大人や同年齢の子供と、自分なりの言葉でしゃべりをする。 ○よいこと、いけないことが分かってくる。 ○大人に援助されながら、自分のことを自分でしようとする。
《規範》 決まり ルール マナー など		○大人を模倣しながら、挨拶のしぐさをしようとする。	○片付けの場所が分り、片付いた状態を気持ちよく感じる。 ○大人に促されて挨拶を繰り返す中で相手への親しみを感じ、自分からしようとする。	○大人に促されて、生活の中の簡単な決まりや危険なことなどに気付く。 ・大人の援助で、「順番」や「交代」などのルールがあることを知る。 ・大人と一緒に簡単なルールのある遊びを楽しむ。	
大人の関わりで大切なこと	○大人の愛情豊かな受容によって、情緒が安定し、愛着関係が育まれる。保育所等では、なるべく一定の大人が関わるようにする。	○大人に甘えたり、言葉や物のやり取りをしたがったりする姿を十分に受け止めて温かく応じ、安心感や信頼感をもてるようにする。	○一人遊びが十分にできるように、興味をもった遊びを楽しむ場や物を用意する。	○自分の気持ちや要求を、自分なりに相手に伝えようとすることを大切にする。その際、具体的な言葉を使ったり、伝えたいことを仲介したりして、伝わったうれしさを感じられるようにする。	
	○子供の動きや表情を読み取り、その子供のリズムやテンポに合わせて、会話を楽しむようなつもりで働き掛ける。 ○一人ひとりの生活リズムに合わせて生理的欲求を満たし、気持ちよく過ごせるようにする。 ○優しい言葉、声、まなざし、笑顔での働き掛けなどを通して、子供の情緒の安定や人との心地よい関わり、周囲への関心を育んでいく。	○子供が模倣しやすいように、言葉や動作をゆっくりと大きく行うようにし、子供の思いや要求に丁寧に対応し、やり取りをする。 ○快・不快など、自分の気持ちや身体感覚を言葉で伝え、言葉で表現できるように促す。 ○人見知りや後追いなど、子供が不安を表したときは、抱きしめるなどして温かく受け止め、子供が安心感をもてるようにする。	○大人に促されて、生活の中の簡単な決まりや危険なことなどに気付く。 ・大人の援助で、「順番」や「交代」などのルールがあることを知る。 ・大人と一緒に簡単なルールのある遊びを楽しむ。	○自分の気持ちや要求を、自分なりに相手に伝えようとすることを大切にする。その際、具体的な言葉を使ったり、伝えたいことを仲介したりして、伝わったうれしさを感じられるようにする。 ○着替えや食事、トイレでの排泄など、身の回りのことを自分でできるように促し、自信を育てていくように、子供が扱いやすい物や場所を工夫する。 ○遊びのルールは分かっているが、そのルールを受け入れられない子供もいる。その気持ちを受け止め、一緒に遊んで楽しむという思いをもてるようにする。	
		○人見知りや後追いなど、子供が不安を表したときは、抱きしめるなどして温かく受け止め、子供が安心感をもてるようにする。	○自分の思い通りにいかないときや感情的に混乱する場面も見られる時期である。まず子供の気持ちを全面的に受け止める。受け止められている安心感をもたせ、情緒の安定を図る。その上で、相手が痛かったことや悲しかったこと、してはいけないことなどを伝えていく。	○簡単な決まりや危険なことに気付くように、遊具で遊ぶときに順番に並ばせたり、危ない場面で大人が分かりやすく注意したりする。	

11 第1章 幼児期の「規範意識の芽生え」について

12

〈本指導資料で使用する用語について〉

- ・就学前教育施設…保育所、幼稚園、こども園等、就学前の保育・教育施設のことをいう。
- ・保育者…就学前教育施設における、保育士及び幼稚園教諭のことをいう。
- ・クラス…就学前教育施設における、学級やクラスのことを総称していう。

(1) おおむね6か月未満～おおむね3歳

視 点	おおむね6か月未満	おおむね6か月から1歳3か月未満	おおむね1歳3か月から2歳未満	おおむね2歳	おおむね3歳
	情緒の安定のために、愛情をたっぷりと	温かい応答で、心地よいコミュニケーションを	新しい行動は、大人の「まねっこ」から	「いや!」「じぶんで!」は成長の証 余裕をもった関わりを	「やってみたい」「やったらできた」満足感を大切に
《関わり》 親しみ 自己発揮 共感 調整 など	○落ち着いた雰囲気の中で、抱く、あやす、語り掛けるなどをしてもらうことで、安定した気持ちと喜びを味わう。	○大人と視線を合わせ、表情や喃語 なんご などを通してやり取りを喜ぶ。 ○大人の語り掛けや働き掛けに、声を出したり、応えようとしたりする。	○生活や遊びの中で大人を仲立ちとして、簡単な単語や物のやり取りをする。 ○大人と触れ合ったり、話をしたりすることを通じて気持ちを通わせる。 ○思い通りにならないときに、自分本位の行動が目立つ。 ・他の子供に対して、かみついたり、ひっかいたりすることがある。	○一人遊びを楽しみながら、大人の仲介により、同年齢の子供にも関心をもって遊ぶ。 ○思い通りにならないときはかんしゃくを起こしたり、頑固な行動を取ったりする。 ○褒められたり、感謝されたりすることを喜ぶ。	○平行遊びだが、同年齢の子供と少しの間一緒に遊ぶ。 ○同年齢の子供との玩具の取り合いや気持ちのぶつかり合いなどの中で、大人の仲介により、相手の思いを知る。 ○大人に褒めてもらうことを喜び、頑張ろうとする。
《自立》 自信 判断 身だしなみ 礼儀 など	○声や泣き声、ほほえみなどで自分の欲求を表し、なだめられたり、受け入れてもらったりすることで安心する。	○心地よいときは笑ったり、ほほえんだりし、不快なときは泣いて欲求を表す。 ○大人のすることに興味をもったり、まねをしようとしたりする。 ○大人の表情を読み取ろうとしたり、大人の言うことをほぼ理解したりする。 ○衣服の着脱など、身の回りのことに関わるようになる。 ・服を着せるとき、自分から袖に腕を通したり、パンツに足を通したりする。	○「～したい」「～がほしい」という思いが強まり、指差しやしぐさなどで伝え、受け止めてもらうことを喜ぶ。 ○いけないことを注意されると、泣いたり、しょんぼりしたりする。 ○片付ける場所が分かり、片付いた状態を気持ちよいと感じる。 ○大人を模倣しながら、挨拶のしぐさをしようとする。	○身近な大人に要求する。 ・身振りや言葉で伝えようとする。 ○なんでも自分でやってみる。 ○自分の物、人の物の区別がつく。 ○遊んだ後に、大人と一緒に遊具を片付けようとする。 ○大人に促されて挨拶を繰り返す中で相手への親しみを感じ、自分からもしようとする。 ○大人に促されて、生活の中の簡単な決まりや危険なことなどに気付く。 ・大人の援助で、「順番」や「交代」などのルールがあることを知る。 ・大人と一緒に簡単なルールのある遊びを楽しむ。	○大人や同年齢の子供と、自分なりの言葉でおしゃべりをする。 ○よいこと、いけないことが分かってくる。 ○大人に援助されながら、自分のことを自分でしようとする。
《規範》 決まり ルール マナー など	○大人の愛情豊かな受容によって、情緒が安定し、愛着関係が育まれる。保育所等では、なるべく一定の大人が関わるようにする。 ○子供の動きや表情を読み取り、その子供のリズムやテンポに合わせて、会話を楽しむようなつもりで働き掛ける。 ○一人ひとりの生活リズムに合わせて生理的欲求を満たし、気持ちよく過ごせるようにする。 ○優しい言葉、声、まなざし、笑顔での働き掛けなどを通して、子供の情緒の安定や人との心地よい関わり、周囲への関心を育んでいく。	○子供が模倣しやすいように、言葉や動作をゆっくりと大きく行うようにし、子供の思いや要求に丁寧に対応し、やり取りをする。 ○快・不快など子供の伝えたい気持ちを受け止め、言葉を掛けながら対応する。 ○人見知りや後追いなど、子供が不安を表したときは、抱きしめるなどして温かく受け止め、子供が安心感をもてるようにする。	○大人に甘えたり、言葉や物のやり取りをしたがったりする姿を十分に受け止めて温かく応じ、安心感や信頼感をもてるようにする。 ○指差しや身振り、片言で伝えようとしていることを受け止めて言葉にして返し、子供が気持ちを伝える喜びや受け止められる心地よさを感じられるようにする。 ○自分の思い通りにいかないと感情的に混乱する場面も見られる時期である。まず子供の気持ちを全面的に受容し、受け止められている安心感をもたせ、情緒の安定を図る。その上で、相手が痛かったことや悲しかったこと、してはいけないことなどを伝えていく。	○一人遊びが十分にできるように、興味をもった遊びを楽しめる場や物を用意する。 ○「自分でしたい」という気持ちを尊重して、ゆったりと接しながらさりげなく手助けをし、自分でできた喜びを感じられるようにする。 ○簡単な決まりや危険なことなどに気付くように、遊具で遊ぶときに順番に並ばせたり、危ない場面で大人が分かりやすく注意したりする。	○自分の気持ちや要求を、自分なりに相手に伝えようとするのを大切にする。その際、具体的な言葉を教えたり、伝えたいことを仲介したりして、伝わったうれしさを感じられるようにする。 ○着替えや食事、トイレでの排せつなど、身の回りのことを自分でできることを喜び、自信を重ねていけるように、子供が扱いやすい物や場所を工夫する。 ○遊びのルールは分かっているけど、そのルールを受け入れられない子供もいる。その気持ちを受け止め、一緒に遊んで楽しかったという思いをもてるようにする。

大人の関わりで大切なこと

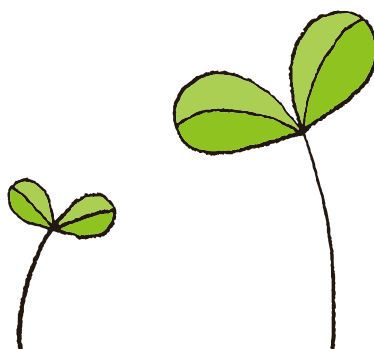
(2) 3歳児～5歳児

視 点	3歳児 大人と一緒に決まりを守る体験を	4歳児 相手の気持ちに触れる体験をたっぷりと	5歳児 みんなと一緒に生活することの楽しさを基に、 自立に向けて応援を
《関わり》 親しみ 自己発揮 共感 調整 など	○大人や同年齢の子供と一緒に遊ぶことを喜ぶ。 ○安心感をもって、伸び伸びと自分を表して行動する。 ○身近な様々な人と触れ合うことを喜ぶ。	○思いや考えを出し合いながら遊ぶ楽しさを味わう。 ○うまくいかないことや葛藤場面を通じて、相手にも思いや考えがあることに気付く。 ○何かをしてあげたり、してもらったりすることを喜ぶ。 ○同年齢の子供とのつながりを感じながら、皆で行う活動の楽しさを味わう。 ○異年齢の子供、家族以外の大人や地域の方などに親しみをもち、一緒に活動する楽しさを感じる。	○同年齢の子供と考えが違ったときに、折り合いを付けながら、うまくいかない場面を乗り越えようとする。 ○一人ではできないことを協力して行う喜びや満足感を味わい、互いのよさを認め合う。 ○異年齢の子供、高齢者をはじめ地域の方などと関わり、思いやりや親しみをもつ。
《自 立》 自信 判断 身だしなみ 礼儀 など	○様々なことを自分なりに行い、できた喜びを十分に味わう。 ○同年齢の子供の反応や大人の働き掛けから、してよいことと悪いことが分かる。 ○大人に見守られたり、手伝ってもらったりしながら、身の回りのことなどのできることは、自分でしようとする。 ○一日の生活の流れを感じ取り、自分から行動しようとする。 ○簡単な挨拶や伝言をしたり、返事をしたりする。	○自分なりにやり遂げた満足感や、身近な人に認められる喜びを通して、自信をもつ。 ○大人や同年齢の子供の言動を受け止めて行動しようとする。 ○困ったことやしてほしいことを自分から大人に伝える。 ○してよいことと悪いことが分かり、状況を感じて自分なりに行動しようとする。 ○遊びや生活に合った身支度をしようとする。 ○大人や同年齢の子供に気持ちよく挨拶する。	○繰り返し挑戦して達成したり、様々な人に認められたりすることを通して、自信をもつ。 ○周囲の状況や同年齢の子供の思いを感じ取って行動しようとする。 ○クラスの一員として、してよいことと悪いことがあることが分かり、考えながら行動する。 ○遊びや生活に合った身支度を考え、すすんで行う。 ○場面に応じた挨拶をしたり、高齢者やお客様に対して丁寧な言葉を使おうとしたりする。
《規 範》 決まり ルール マナー など	○生活や遊びの中には、安全のためなどに必要な決まりがあることを知り、それを守ろうとする。 ○みんなで使う物があることが分かり、一緒に使おうとする。 ○遊具や用具の貸し借り、交代や順番待ちの際に、必要な言葉を使う。 ○大人の手伝いをすることを喜ぶ。	○同年齢の子供と楽しく生活する中で、決まりの大切さに気付き、守ろうとする。 ○安全のために必要な決まりや行動の仕方が分かり、自分から行おうとする。 ○共同のものを大切にしてい、みんなで使う。 ○簡単なルールを守って遊ぶ楽しさを味わう。 ○生活に必要なことに気付き、手伝いや当番などに興味をもって取り組む。 ○公園や図書館など、公共の場所での過ごし方が分かり、守ろうとする。	○同年齢の子供と一緒に遊びを発展させる中で、自分たちで遊び方や決まりをつくり出し、守って遊ぶ。 ○安全のために必要な決まりが分かり、遊びや生活の中で、危険なことを自分で判断する。 ○共同の遊具や用具を大切にし、譲り合って使う。 ○生活に必要なことを同年齢の子供と一緒に進め、自分の役割を行うことに喜びを感じる。 ○公園や図書館など、公共の場所での過ごし方を理解し、意識して行動する。
大人の関わりで大切なこと	○できるようになったことや表現したこと、考えたことなどを、他の子供と比べるのではなく、その子供の成長として受け止め、認めていく。 ○やってよいことと悪いことがあることを、その都度知らせる。悪いことをしたときには、どこが悪かったのかを伝え、きちんと叱る。 ○規則正しい生活を大切にし、食事、睡眠、清潔などの生活習慣が身に付くようにする。 ○子供が自分で身の回りのことをしようとする気持ちや、できた喜びをもてるように、着脱しやすい服や靴、扱いやすい持ち物や置き場所などを整える。 ○「貸して」などの言葉や交代、順番等の決まりなど、子供同士で活動する上で必要なことを伝え、大人と一緒に行動しながら、徐々に自分でできるようにしていく。 ○子供の話を丁寧に聞き、一緒に考えたり、大人もその日の出来事を話したりして、会話の楽しさを共有する。 ○地域の行事や図書館、児童館など地域の施設に積極的に出掛け、様々な人との触れ合い、新たな体験や出会いを楽しめるようにする。 ○大人が物に愛着をもち、丁寧に扱う姿を通して、物を大切に扱う心や扱い方を教えていく。 ○交通ルールや電車でのマナーなど、安全で気持ちよく暮らしていくために必要なことを日常的に大切にし、大人がきちんと守る姿を見せる。	○子供の様子を大人同士で話し、同年齢の子供との葛藤やトラブルを通して子供が育つことを知ったり、共有したりする。 ○けんかの場面では、双方が相手の思いにも気付けるように大人が仲介する。その子供の気持ちを受け止めて心を落ち着かせたり、その後どうしたらよいかを一緒に考えたりして、気持ちを切り替えて遊べるように支える。 ○子供が自分で行おうとしている気持ちを尊重し、大人が先に指示したりせずに温かく見守り、できたことを共に喜ぶ。 ○よいことや悪いことなど、子供が気付いたことや考えたことを十分に受け止め、そこから必要なこと、大切なことを一緒に考えていくように関わる。 ○生活に必要なことを子供と一緒に رفتたり、簡単な手伝いをさせたりし、そのことで気持ちよく生活できることを伝え、共感する。 ○ルールがある遊びを大人も一緒にしながら、その楽しさや負ける悔しさなどを共に味わう。	○様々な人（地域の方、親戚、同年齢の子供の家族など）と関わる中で、その場に合った行動や人への接し方を、子供が経験できるようにする。 ○遊びや友達関係がうまくいかない場面では、子供が、様々な出来事や感情に向き合いながら乗り越えていけるように、一緒に考え、支えていく。 ○家庭や集団生活での決まりや手伝い、当番活動などを、子供が中心になって考えて実行する機会をつくり、取り組む姿を認めて自信をもたせる。 ○自分で考えて判断し、発言したり行動したりする姿を認めていく。 ○継続してできる手伝いをさせ、感謝の気持ちを伝えることで、家族の一員としての自覚と誇りを子供が実感できるようにする。 ○日常生活の中で、交通安全や地域社会のルールについて教える。 ○公共の場でのルールやマナーを実際の場面を通して知らせ、子供が理解して行動できるようにしていく。



第2章

「規範意識の芽生え」を培う 指導計画



指導計画の構成及び見方

本指導計画は、3歳児から5歳児までをそれぞれ前期・後期に分けて掲載しています。指導計画の構成及び見方は、以下の通りです。

3歳児前期（4月～10月頃）

ねらい

- ◆ 園生活や保育者、友達に慣れ親しんで安心して過ごす。
- ◆ 生活や遊びの中で必要な、簡単な決まりが分かる。

領域	ねらい
《関わり》	・保育者との触れ合いを通して、安心して生活する。 ・自分でしたい遊びを見付け、安心して遊びを楽しむ。 ・したいこと、してほしいこと、思ったことなどを自分なりの言葉や表現で、保育者に伝えようとする。 ・園の様々な行事に参加して楽しさを感じる。 ・自分の思いを表情や言動で表し、相手にも思いがあることを感じる。
《自立》	・保育者に親しみをもち、挨拶をしたり返事をしたりする。 ・園生活に必要な身の回りのことを、自分なりにやってみようとする。 ・手洗いやうがいの仕方、衣服の着脱、排せつの手順などを知り、保育者に促されてやってみようとする。
《規範》	・遊具訓練があることや道路の歩き方などを知り、保育者とともに行動しようとする。 ・みんなで過ごすために必要な約束や、簡単な遊びのルールを知る。 ・保育者に声を掛けられて、一緒に遊具を片付けたり、大切にすることを知ったりする。 ・自分の物、他の人の物、みんなの物の違いが分かる。 ・「入れて」「貸して」など、遊びに必要な言葉を知り、使おうとする。

保育者の関わりで大切にしたいこと

- 幼児一人ひとりのありのままの姿を受け止め、幼児が保育者に安心感をもてるようにする。
- 名前を呼ぶ、挨拶をするなど、一人ひとりに温かく声を掛けたりスキンシップを図ったりする。
- 一人ひとりの思いを受け止めながら、徐々に相手の思いも伝え、自分とは違う思いがあることを感じられるようにする。
- 危険なことやよくないことは、分かりやすく簡潔に伝える。
- 表示を活用し、順番や交代などが分かるようにする。
- 約束やルールを守っている姿を、言葉に出して具体的に認める。
- 片付けや所持品の始末など、幼児が理解し取り組みやすいように収納場所や表示を工夫し、自分でできたと感じられるようにする。
- 日常生活の中で、人や物への関わり方を保育者がモデルとして示し、幼児と一緒に行動して身に付けていく。

1 ページ目 【ねらい、内容 等】

規範意識の芽生えを培うための、各期の発達に応じたねらいを示しています。

規範意識の芽生えを培う視点から、その時期の幼児に経験させたい具体的な内容を示しています。

規範意識の芽生えを培うために、保育者の関わりで大切にしたいことを示しています。

2 ページ目 【家庭とともに】

家庭との連携のポイントや、具体的な取組例などを示しています。

ふとつぶやいた幼児の言葉や、そのときの状況を示しています。

家庭とともに

- 進級や入園に伴う保護者の不安な気持ちを受け止め、園での幼児の様子を具体的に伝え、保護者が安心感をもてるようにする。
- 集団生活の中で、思い通りにならない経験から学ぶことの大切さを伝え、理解を図る。
- 幼児が身の回りのことを自分の力でやろうとしている姿を伝える。その際、時間的な余裕をもつことや励まし方など、自分でできる喜びを味わわせるために園で行っている具体的な接し方を伝える。
- 危険なことやよくないことは、幼児に分かりやすい伝え方（言葉、表情、理由を添えることなど）できちんと教えていることを具体的に話し、家庭での接し方の参考となるようにする。
- 幼児が扱いやすい物を保護者が整えられるように具体的に知らせる。
- 基本的な生活習慣を身に付けるための園での取組を伝え、家庭とともに生活リズムの安定を図れるようにする。

自分の力で頑張っていることを応援しましょう ～保育参観を通して～

【目 的】 幼児の身支度などを参観する機会を設定し、自分で頑張ろうとしている姿を見ることが通して、幼児にとって扱いやすい物や取り組みやすい環境を保護者に知らせる。

【内 容】

- 1 朝の身支度の時間を参観できるように設定する。
- 2 幼児が自分で身支度をする様子を、手伝わずに見守ってもらう。
- 3 家庭で参考にできるように、指示等を工夫する。
 - ・自分でできるようにするための環境等の工夫をまとめた、プリントや掲示物
 - ・扱いやすい物（タオルのループ、コップ袋や上履き袋の入れ口、通園靴、着替え、外靴など）のポイントや、実物の展示 など
- 4 身支度にかかる時間や方法は個人差が大きいので、できるかどうかの結果ではなく、どのように取り組んでいるかに着目できるようにし、その幼児が頑張っていることを伝える。可能であれば、少人数で参観できるように工夫をする。

こどものつぶやき 「おかあさん、すぐくろよ」

入園してから3週間、お母さんと離れるのが寂しくて毎日泣いて過ごしていた a ちゃんが、泣かずに登園するようになりました。その翌日のこと。玄関で泣いている b ちゃんの様子をじっと見つめ、「おかあさん、すぐくろよ。」と話し掛けていました。自分も同じだったからこ b ちゃんに共感し、寂しさを乗り越えた a ちゃんならではの、心のこもった言葉です。

3、4 ページ目 【指導例】

一人ひとりの楽しみ方で 3歳児 4月

保育者と5、6人の幼児が砂場で遊んでいます。A児「プリン作っているの。先生、食べて。」「おいしそう。いただきます。」などと保育者とのやり取りがあります。また、B児は「チョコレートできたよ。」C児は「これ、ケーキなの。」と思い付いたことを口にしなが、それぞれに遊んでいます。

保育者は、幼児の様子を受け止めて、ケーキ屋さんならみんなと一緒に遊べると考えました。そこで、「みんなでケーキ屋さんしようよ。」と提案すると、D児は「え？」と少し困ったような表情をしました。

ここがポイント！

- 一人ひとりの気持ちに寄り添い、それぞれの楽しみ方で十分に遊べるようにしましょう。

「冷たくて気持ちがいいね。」

改めて、D児の様子をよく観察してみると、砂と水を順番に混ぜて、手でその表面をべちゃべちゃとたたいて遊んでいました。D児は自分なりの楽しみ方を見付けていたようです。そのことに気付いた保育者は、「冷たくて気持ちがいいね。」と、声を掛けました。すると、D児はにっこりしながら「うん。」と答え、遊びを続けました。

他の幼児も保育者が提案した「ケーキ屋さん」にはならず、自分なりの遊び方で砂場で遊びました。保育者は、それぞれの楽しみ方に応じて関わりました。

《他にもこんな姿が…》

- プリンを作っていたA児、チョコレートを作っていたB児は、その後も保育者とのやり取りを繰り返し楽しめました。
- ケーキを作っていたC児は、型抜きをすることが楽しい様子で、何度も繰り返し、たくさん作っていました。

● 自分の思いが十分に受け止められ、安心して遊ぶことが、自己発揮や自信の基盤になります。

幼児の様子を簡潔に示しています。

この指導例における、援助のポイントを示しています。

その後の展開や他の幼児の姿などを示しています。

そこでの幼児の経験が、どのような力につながっていくのかを示しています。

5、6 ページ目 【資料等】

規範意識の芽生えを培うために活用できる、資料や活動例等を示しています。どの年齢でも活用することができます。

使ってみませんか？（資料等）

家庭での取組と一緒に考える

家庭は子供にとって安心できる居場所であり、基本的な信頼感や思いやり、規範意識等、人との関係を作るための基盤が育まれる大切な場所です。幼児の生活は、家庭を基盤として地域社会を通じて次第に広がりをもつものであるため、家庭との連携を十分に図ることが重要です。連携に当たっては、保護者との情報交換の機会を設けたり、保護者と幼児が共に活動する機会を設けたりすることなどを通じて、保護者の幼児期の教育に対する理解が深まるように配慮することが望まれます。

「乳幼児期を大切に～心と体の基礎を育てるとき～」
指導用スライド教材Ⅰ～Ⅵ（東京都教育委員会）の活用

本スライド教材は、乳幼児期からの子供の発達や望ましい生活習慣等について、保育者が保護者に話をするときに使用することができるものです。スライド教材には、「スライド」及び「指導の手引き」（各スライドの趣旨、解説、投げ掛けの例など）が掲載されています。（各資料は巻末に掲載したURLからダウンロードすることができます。）

スライド教材Ⅵ
「豊かな心と社会性の成長・発達のために」から例示

スライド11 我が家のお手伝いを決めよう～生活の体験は、自立への準備、文化の伝承～

スライド17 生活のルールは我が家から

スライド18 よい行動を教えることは、子供への大切な贈り物です

3歳児前期（4月～10月頃）

ねらい

- ◆ 園生活や保育者、友達に慣れ親しんで安心して過ごす。
- ◆ 生活や遊びの中で必要な、簡単な決まりが分かる。

《関わり》

親しみ
自己発揮
共感
調整
など

- ・保育者との触れ合いを通して、安心して生活する。
- ・自分でしたい遊びを見付け、安心して遊びを楽しむ。
- ・したいこと、してほしいこと、思ったことなどを自分なりの言葉や表現で、保育者に伝えようとする。
- ・園の様々な行事に参加して楽しさを感じる。
- ・自分の思いを表情や言動で表し、相手にも思いがあることを感じる。

《自立》

自信
判断
身だしなみ
礼儀
など

- ・保育者に親しみをもち、挨拶をしたり返事をしたりする。
- ・園生活に必要な身の回りのことを、自分なりにやってみようとする。
- ・手洗いやうがいの仕方、衣服の着脱、排せつの手順などを知り、保育者に促されてやってみようとする。

《規範》

決まり
ルール
マナー
など

- ・避難訓練があることや道路の歩き方などを知り、保育者とともに行動しようとする。
- ・みんなで過ごすために必要な約束や、簡単な遊びのルールを知る。
- ・保育者に声を掛けられて、一緒に遊具を片付けたり、大切にすることを知ったりする。
- ・自分の物、他の人の物、みんなの物の違いが分かる。
- ・「入れて」「貸して」など、遊びに必要な言葉を知り、使おうとする。

保育者の関わりで大切にしたいこと

- 幼児一人ひとりのありのままの姿を受け止め、幼児が保育者に安心感をもてるようにする。
- 名前を呼ぶ、挨拶をするなど、一人ひとりに温かく声を掛けたりスキンシップを図ったりする。
- 一人ひとりの思いを受け止めながら、徐々に相手の思いも伝え、自分とは違う思いがあることを感じられるようにする。
- 危険なことやよくないことは、分かりやすく端的に伝える。
- 表示を活用し、順番や交代などが分かるようにする。
- 約束やルールを守っている姿を、言葉に出して具体的に認める。
- 片付けや所持品の始末など、幼児が理解し取り組みやすいように収納場所や表示を工夫し、自分でできたと感じられるようにする。
- 日常生活の中で、人や物への関わり方を保育者がモデルとして示し、幼児と一緒に行動して身に付けさせていく。



家庭とともに

- 進級や入園に伴う保護者の不安な気持ちを受け止め、園での幼児の様子を具体的に伝え、保護者が安心感をもてるようにする。
- 集団生活の中で、思い通りにならない経験から学ぶことの大切さを伝え、理解を図る。
- 幼児が身の回りのことを自分の力で行おうとしている姿を伝える。その際、時間的な余裕をもつことや励まし方など、自分でできる喜びを味わわせるために園で行っている具体的な接し方を伝える。
- 危険なことやよくないことは、幼児に分かりやすい伝え方（言葉、表情、理由を添えることなど）できちんと教えていることを具体的に話し、家庭での接し方の参考となるようにする。
- 幼児が扱いやすい物を保護者が整えられるように具体的に知らせる。
- 基本的生活習慣を身に付けるための園での取組を伝え、家庭とともに生活リズムの安定を図れるようにする。

自分の力で頑張っていることを応援しましょう ～保育参観を通して～

【目的】 幼児の身支度などを参観する機会を設定し、自分で頑張ろうとしている姿を見ることを通して、幼児にとって扱いやすい物や取り組みやすい環境を保護者に知らせる。

【内容】

- 朝の身支度の時間を参観できるように設定する。
- 幼児が自分で身支度をする様子を、手伝わずに見守ってもらう。
- 家庭で参考にできるように、掲示等を工夫する。
 - ・自分でできるようにするための環境等の工夫をまとめた、プリントや掲示物
 - ・扱いやすい物（タオルのループ、コップ袋や上履き袋の入れ口、通園鞆、着替え、外靴など）のポイントや、実物の展示 など
- 身支度にかかる時間や方法は個人差が大きいので、できるかどうかの結果ではなく、どのように取り組んでいるかに着目できるようにし、その幼児が頑張っていることを伝える。可能であれば、少人数で参観できるような工夫をする。

こどものつぶやき 「おかあさん、すぐくるよ」

入園してから3週間、お母さんと離れるのが寂しくて毎日泣いて過ごしていたaちゃんが、泣かずに登園するようになりました。その翌日のこと。玄関で泣いているbちゃんの様子をじっと見つめ、「おかあさん、すぐくるよ。」と話し掛けていました。

自分も同じだったからこそbちゃんに共感し、寂しさを乗り越えたaちゃんならではの、心のこもった言葉です。

一人ひとりの楽しみ方で

3歳児 4月

保育者と5、6人の幼児が砂場で遊んでいます。A児「プリン作っているの。先生、食べて。」「おいしそう。いただきます。」などと保育者とのやり取りがあります。また、B児は「チョコレートできたよ。」C児は「これ、ケーキなの。」と思い付いたことを口にしなが、それぞれに遊んでいます。

保育者は、幼児の様子を受け止めて、ケーキ屋さんならみんなと一緒に遊べると考えました。そこで、「みんなでケーキ屋さんにしようよ。」と提案すると、D児は「え?」と少し困ったような表情をしました。



ここがポイント!

- 一人ひとりの気持ちに寄り添い、それぞれの楽しみ方で十分に遊べるようにしましょう。

「冷たくて気持ちがいいね。」

改めて、D児の様子をよく観察してみると、砂と水を順番に混ぜて、手でその表面をぺちゃぺちゃとたたいて遊んでいました。D児は自分なりの楽しみ方を見付けていたようです。そのことに気付いた保育者は、「冷たくて気持ちがいいね。」と、声を掛けました。すると、D児はにっこりしながら「うん。」と答え、遊びを続けました。

他の幼児も保育者が提案した「ケーキ屋さん」にはならず、自分なりの遊び方で砂場で遊びました。保育者は、それぞれの楽しみ方に応じて関わりました。

〈他にもこんな姿が…〉

- プリンを作っていたA児、チョコレートを作っていたB児は、その後も保育者とのやり取りを繰り返し楽しみました。
- ケーキを作っていたC児は、型抜きをすることが楽しい様子で、何度も繰り返し、たくさん作っていました。

- 自分の思いが十分に受け止められ、安心して遊ぶことが、自己発揮や自信の基盤になります。

気分は運転手さん

3歳児 9月

クラスで近くの公園に散歩に出掛けるときのことです。保育者が「真っすぐ並んでね。」と声を掛けたり、手を引いて列を整えたりしようと思いますが、幼児はすぐに広がってしまいます。

横を向いたまま歩いたり、急に立ち止まったりして危ないため、保育者は必死になって、「ちゃんと並んで。」と、幼児に呼びかけています。

ここがポイント!

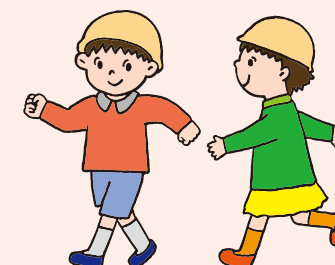
- 幼児にとって分かりやすく、思わずやってみたくなる援助を工夫しましょう。

「運転手さんになって、歩けるかな。」

保育者が何度列を整えても、幼児たちは同じことを繰り返すばかりです。

そこで、「きりん組の電車が発車しますよ。」「運転手さんになって歩けるかな。」と、声を掛けました。列からはみ出しそうになる幼児には、「あ!脱線しちゃうよ。運転手さん、気を付けて。」と、すかさず声を掛けるようにしました。

幼児たちは、運転手になって線路を進んでいる気分になり、前の幼児の後をしっかりとついて歩き、安全に道の端を歩くことができました。



〈他にもこんな言葉掛けが…〉

- うがいや手洗いをするとき…『バイキンと、ばいばいしたかな』
- ボタンをかけるときに…『ボタンの頭が出てきたかな』
- 片付けのときに…『お家に帰らせてあげようね』 など

- 自分で上手に行動できたことの積み重ねを通して、生活や遊びの中で必要な決まりが身に付いていきます。

3歳児後期（11月頃～3月）

ねらい

- ◆ 友達への関心をもち、みんなで過ごすことを楽しいと感じる。
- ◆ 生活に必要な行動が分かり、自分から行おうとする。

《関わり》

親しみ
自己発揮
共感
調整

など

- ・生活や遊びの中で友達と一緒に過ごすことを喜ぶ。
- ・自分の気持ちや困っていること、してほしいことなどを自分なりの言葉や表現で保育者に伝えたり、保育者に支えられながら、友達に伝えたりする。
- ・友達のしていることに関心をもち、仲間に入ろうとしたり一緒に遊ぶことを楽しいと感じたりする。
- ・異年齢児の遊びに関心をもち、年長児に対する憧れを感じたり、まねたりする。
- ・自分の思いを表現して遊ぶ中で、思い通りにならないときがあることに気付く。

《自立》

自信
判断
身だしなみ
礼儀

など

- ・保育者に励まされながら様々なことに取り組み、できたことに喜びを感じる。
- ・生活や友達との関わりの中で、してよいことと悪いことに気付く。
- ・園生活に必要な身の回りのことなど、できることは自分でしようとし、できたことを喜ぶ。

《規範》

決まり
ルール
マナー

など

- ・安全指導や避難訓練を通して、生活や安全に必要な決まりがあることを知り、保育者や友達と一緒に行動する。
- ・遊びの中で、遊具や物の安全な使い方や簡単な決まりに気付く。
- ・簡単なルールのある遊びの中で、自分なりに動く楽しさを感じる。
- ・テーブルを拭いたり、食器を運んだりするなど、保育者の手伝いをして喜ぶ。

保育者の関わりで大切にしたいこと

- 遊びのコーナーや場の配置を工夫し、一緒にいたい友達と関われるようにする。
- 自分なりに思いを言葉や行動に表している姿を認め、安心して遊べるようにする。また、クラスの友達と一緒に活動する楽しさを味わえるようにする。
- 一人ひとりの思いを受け止めながら言葉にし、相手の気持ちに気付くようにしたり、相手に伝えたいことを一緒に言ったりする。
- 年長児の活躍している場面を捉え、保育者が感じたことをつぶやいたり、関心がもてるように幼児に声を掛けたりする。
- 幼児が身の回りのことを自分からやってみようとする姿やできるようになったことを、十分に認める。
- ルールがある遊びの楽しさを感じられるように、ルールを簡潔にしたり、イメージを伴って楽しめるようにしたりする。
- 物の取り合いや順番争いなどの場面では、双方の気持ちを受け止めた上で、順番や交代の必要性及び具体的な行動などを分かりやすくらせていく。



家庭とともに

- 幼児の発達には個人差があることを伝え、一人ひとりの発達の様子を共通理解する。
- 家庭でも幼児の気持ちを受け止め、共感してもらえるように、幼児が様々な感情体験をしていることやその大切さを伝える。また、家庭での幼児の様子や、保護者が心配していることなどを知らせてほしいことを伝える。
- 自己主張や自立心が強くなるが、まだ、甘えたい時期でもあることから、園でも家庭でも幼児のありのままの姿を温かく受け止められるようにする。
- 自分でできた喜びが、幼児の自信につながるため、園で行っている、褒める、少し手助けをするなどの方法を、具体的に紹介する。
- 喜んで手伝っている姿を紹介するとともに、3歳児なりに役割をもって手伝うことの大切さを伝え、家庭でも機会がもてるように依頼する。

規範意識の芽生えを培うために、 家庭で大切にしたいことを考えましょう

～指導用スライド教材（※）の活用～

【目的】 幼児の規範意識の芽生えを培うために、家庭で行うとよいことを考えたり、具体的な方法について話し合ったりする。

【内容】

- 1 保護者会などの場でスライド教材を使いながら、保育者が説明をする。
- 2 それぞれの家庭で工夫していることや、困っていることなどについて、グループ（4人から6人程度）で話し合う。
- 3 グループで話したことを発表し、クラスで共有する。

※「乳幼児期を大切に～心と体の基礎を育てるとき～」
指導用スライド教材（東京都教育委員会 平成25年3月）
*P. 26及び巻末URL参照



こどものつぶやき

「いっしょにやる？」

ゆっくりペースのcちゃんが、初めて砂場でdちゃんに声を掛けました。クラスの中で、一緒に過ごしたい相手に出会ったり、「いっしょにやる？」と声を掛けなくなったりするのは、すてきなことです。友達とのつながりの始まりです。

ルールを感じながら、繰り返し楽しむ

3歳児11月

「オオカミと7ひきの子ヤギ」の話を、幼児の大好きな追いかけごっこに取り入れました。

ヤギの家を作り、その中に入った子ヤギは捕まりません。そして、オオカミにタッチされたら、食べられたことにするという簡単なルールを決めました。遊びが始まると、E児は「ガオー」とオオカミになりきって追いかけます。「キャー」と逃げ回る子ヤギたちの中で、F児が転んで泣いてしまいました。張り切っていたE児も困っています。



ここがポイント！

- ゆるやかなルールの中で、保育者とのつながりを中心に、友達と遊ぶ楽しさを感じられるようにしましょう。

「じゃあ、もう一回しよう。」

保育者がそばに行くと、「Eちゃんが押したんだもん！」とF児。「押してないよ。タッチしたんだよ。」とE児。保育者は双方の思いを受け止め、「Fちゃん、痛かったね。Eちゃんは捕まえようとしてタッチしたのよね。でも、Fちゃんは転んじゃったね。」と声を掛けました。

すると、E児「ごめんね。」F児「いいよ。じゃあ、もう1回しよう。次はオオカミになる。」と言い、二人とも笑顔になり、再び遊びに戻っていきました。

〈他にもこんな姿が…〉

- 「トントントン。お母さんだよ。開けてちょうだい。」「お母さんはそんなガラガラ声じゃないよ。」とお話の世界に浸って、やり取りを楽しんでいました。
- タッチされた後、「食べられちゃったところ、消毒しよう。」と体をさすり、「治った。じゃあ、今度はオオカミになろう。」と、再スタートしました。
- 保育者が幼児の様子や走る速さに合わせて、追いかけたり追いかけられたりすることで、繰り返し安心して楽しむ姿が見られました。

- 自分なりの言葉や行動で思いを表しながら遊ぶことは、友達と一緒に活動する楽しさを感じることに繋がります。
- 楽しく遊ぶ中で、ルールを知り、守ることが大切だと感じる経験を重ねることが出来ます。

次の活動を楽しみに、すすんで行動する

3歳児3月

今日は散歩に行く予定です。保育者が「お散歩に行きますよ。片付けて、お散歩の準備をしてね。」と声を掛けます。幼児は「やったあ。どこ行くの？」と喜んでいきます。「春を見付けに公園に行きましょう。」と保育者が言うと、ほとんどの幼児は自分から片付けをし、排せつを済ませたり、帽子をかぶったりなど、自分で準備を始めています。

そのような中で、G児はブロック遊びを続けています。保育者が何度か声を掛けますが、なかなか気持ちが切り替わりません。



ここがポイント！

- 子供が自分なりの見通しをもって、「自分でできる」と感じられるようにしましょう。

「間に合ったあ。」

保育者は、G児のそばに行きました。「Gちゃん、今日公園に行ったら何をしましょうか。」と聞くと、ブロックで遊びながらも「滑り台する。」と答えました。その言葉からG児の期待を感じた保育者は、「いいねえ。じゃあ、準備をしましょう。一人でできる？それともお手伝いする？」と聞きました。G児は得意気に「できるよ。」と言い、ブロックを片付けました。保育者は、G児が準備の様子を見守ります。必要に応じて「帽子もかぶれましたね。次は何かかな…。そろそろ出発できそうですね。」など、G児が次の見通しをもちながら、「自分でできている。」と感じられるような声掛けや手助けをしました。準備ができたG児は「間に合ったあ。」と笑顔で列に並びました。

〈他にもこんな姿が…〉

- 「先生、今日は上着着る？」と幼児が聞きました。保育者は外に出て、「風が少し冷たいですね。どうしますか。」と問い掛けました。一人ひとりが考えながら「着ていく。」と決めています。生活の中で繰り返ししてきたことで、3歳児なりに見通しをもって考えるようになってきています。

- 生活や活動に見通しをもつことは、今必要なことを、自分で考えて行うことに繋がります。
- 毎日の生活の中で、繰り返し同じ手順で行うことで、必要なことが身に付きやすくなります。

◆ 家庭での取組を一緒に考える

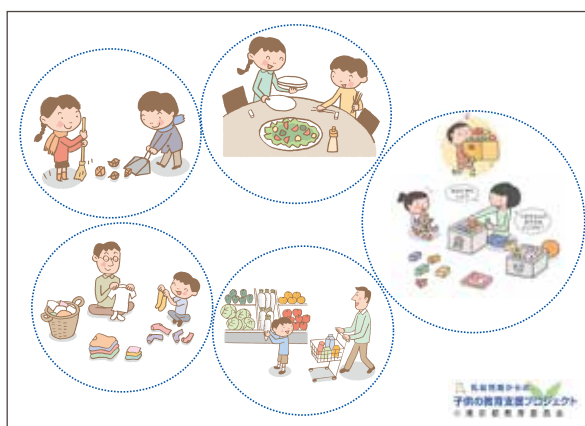
家庭は子供にとって安心できる居場所であり、基本的な信頼感や思いやり、規範意識等、人との関係を作るための基礎が育まれる大切な場所です。幼児の生活は、家庭を基盤として地域社会を通じて次第に広がりをもつものであるため、家庭との連携を十分に図ることが重要です。連携に当たっては、保護者との情報交換の機会を設けたり、保護者と幼児が共に活動する機会を設けたりすることなどを通じて、保護者の幼児期の教育に対する理解が深まるように配慮することが望めます。

「乳幼児期を大切に～心と体の基礎を育てるとき～」

指導用スライド教材Ⅰ～Ⅵ（東京都教育委員会）の活用

本スライド教材は、乳幼児期からの子供の発達や望ましい生活習慣等について、保育者が保護者に話をするときに使用することができるものです。スライド教材には、「スライド」及び「指導の手引き」（各スライドの趣旨、解説、投げ掛けの例など）が掲載されています。

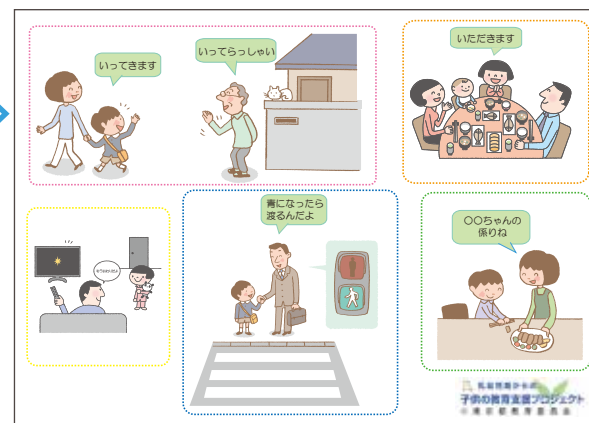
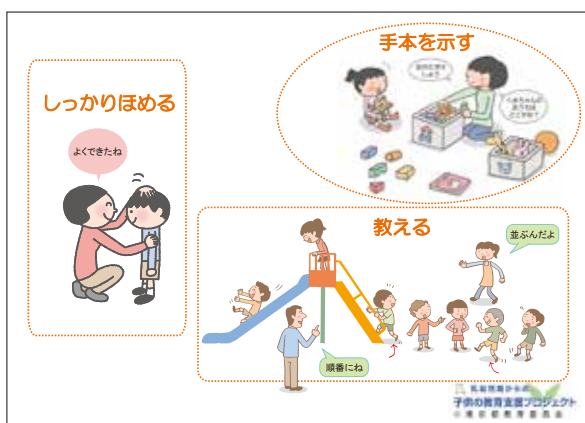
（各資料は巻末に掲載したURLからダウンロードすることができます。）



スライド教材Ⅵ
「豊かな心と社会性の成長・発達のために」
から例示

スライド11 我が家のお手伝いを決めよう
～生活の体験は、自立への準備、文化の伝承～

スライド17 生活のルールは我が家から



スライド18 よい行動を教えることは、
子供への大切な贈り物です

◆ 保護者同士のつながりを結ぶ

保護者が互いに親しみを感じて、気軽に話し、情報交換をすることは、安心して子育てをしたり、一人ひとりの幼児の成長をクラスや園全体の保護者で見守ったりすることにつながります。

〈お楽しみMAP〉

- 園周辺の簡単な地図を用意して、玄関など多くの保護者が見る場所に貼ります。
- ふせん紙やシールなどを用意し、保護者や幼児の「おすすめの場所」を、記名して自由に貼ります。

例：タンポポがたくさん咲いています。
「白い靴下」を履いたネコが、いつもいます。
シイの実が落ちています。
ここから見る夕日は、最高！ など

- 保育者がすすんで「おすすめの場所」を貼ったり、情報を提供した方に話し掛け、周囲にいる保護者と話題をつないだりすることができると、より効果的です。



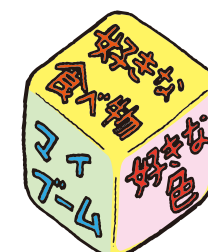
〈サイコロトーク〉

クラス懇談などの際に、保護者同士が気軽に話す機会を通して、親しみやつながりを感じられるように計画します。

- あらかじめ、3～6人程度のグループに分かれておきます。
- ウレタン積木などを利用して、大きなサイコロを作ります。各面に、話題にしたい項目を一つずつ記入しておきます。

例：好きな食べ物 好きな色 マイブーム 経験した部活動 など
※ 個人的な内容になるため、保護者同士の親しみ具合などに応じて、検討した上で設定します。

- サイコロを転がし、出た項目について、グループごとに話し合います。
- 保育者は状況を見ながら、全体に紹介したり、各グループから発表するように働き掛けたりして、必要に応じて内容を皆で共有します。



4 歳児前期（4 月～10 月頃）

ねらい

- ◆ 友達と関わる中で自分の思いを出し、相手の気持ちに気付く。
- ◆ 約束やルールを守ること、遊びが楽しくなったりみんなが気持ちよく過ごせたりすることを感じる。

《関わり》

親しみ
自己発揮
共感
調整
など

- ・保育者に親しみをもち、困ったときなどに自分から伝える。
- ・友達と遊ぶ中で、思いや考えを表情や動き、言葉で自分なりに表現する。
- ・様々な人との関わりの中で、自分ができるところをしたり、してもらったりするうれしさを感じる。
- ・歌を歌ったりゲームをしたりして、クラスみんなで過ごす楽しさを味わう。
- ・異年齢児との関わりの中で、親しみや憧れを感じる。
- ・友達との関わりの中で、思うようにならないことを経験し、相手にも思いや考えがあることに気付く。

《自立》

自信
判断
身だしなみ
礼儀
など

- ・クラスの中で、伸び伸びと自分を出して遊ぶ。
- ・保育者や友達の言動から、してよいこと、悪いことを自分なりに意識する。
- ・遊びに合った身支度をしようとする。
- ・「ごめんね。」「ありがとう。」などの言葉を必要な場面で使い、相手に伝わったうれしさを感じる。

《規範》

決まり
ルール
マナー
など

- ・遊具の使い方や緊急時の行動の仕方など、安全に過ごすための決まりや約束を知り、自分なりに守ろうとする。
- ・自分が使った物は、最後まで片付けようとする。
- ・イメージの世界を楽しみながら、ルールに沿って遊ぶ楽しさを感じる。
- ・電車やバス、公共の施設など、公共の場所での行動の仕方を知り、行おうとする。

保育者の関わりで大切にしたいこと

- 一人ひとりに声を掛けたり、スキンシップを図ったりし、幼児が保育者に親しみをもてるようにする。
- 友達との関わりの中で、自分の思いを言葉で伝えようとする姿を認め、励ましたり一緒に伝えたりし、相手に伝わる喜びに共感する。
- 保育者間で連絡を取り合い、異年齢児の遊びが互いに見えるような場を設定し、年長児に対する憧れや年少児に対する思いやりの気持ちをもつきっかけにする。
- 思うようにならなかったことなどを、自分で受け入れられるまでの時間を保障し、見守ったり認めたりする。
- 生活や遊びの中で、自分なりに考えて行動しようとする姿を認める。
- 幼児の実態に合わせて約束や決まりを伝えたり、具体的な場面を取り上げて一緒に考えたりし、幼児が決まりの必要性を感じられるようにする。
- ゲームでは、お話のイメージを取り入れるなどの工夫をして、幼児が楽しみながらルールを理解し、ルールに沿って遊ぶ楽しさを感じられるようにする。



家庭とともに

- 入園、進級に伴う保護者の不安な気持ちを受け止め、園での幼児の様子を具体的に伝え、保護者が安心感をもてるようにする。
- 友達との関わりの中で様々な感情に触れることが、規範意識の芽生えを培うために大切であることを伝える。同時に、友達関係での幼児の葛藤など、不安なことは気軽に相談してもらい、園や家庭での様子を知らせ合いながら対応できるようにする。
- 幼児が4 歳児なりに考えて行動できるように、大人が問い掛けたり、自分なりにやってみようとする姿を認めたりすることの大切さを知らせる。うまくいかない場面では、一緒に考える、分かりやすく伝えるなど、この時期に応じた大人の関わり方を具体的に紹介する。

4 歳児の友達との関わりについて考えましょう ～保護者会～

【目 的】 4 歳児における友達との関わりについて、幼児の発達や大人の関わり方などを保護者とともに確認し、園と家庭とが共通の見通しをもって幼児を育てていくきっかけにする。

【内 容】 資料を使った保育者の話・グループ協議

〈資料の例〉 ①「規範意識の芽生えの醸成 家庭用リーフレット」(P.55～58)

②「規範意識の芽生え」に関する発達の道筋及び大人の関わり (P.13～14)

- ①を用いて、生まれてから小学校入学までの発達について保育者が話す。
- ②の中から4 歳児の友達との関わりに関する部分を用いて、この時期の幼児にとって大切な経験（様々な感情に触れること、うまくいかない場面に出合うことなど）や発達の見通し、その際の大人の関わりで大切なことを、保育者が具体的な場面を通して伝える。
- 1、2の話に関連して感じたこと、家庭で心掛けていること、子供の姿などを、数人のグループで話し合う。保育者は、安心して話せる雰囲気をつくりながら、話し合いに参加する。

こどものつぶやき

「お・じ・ぎ・そ・う♪」

e 君はオジギソウが大好きで、何度も触れては、葉が垂れる様子を見ていました。

ある日、e 君がオジギソウの前に立って、「お・じ・ぎ・そ・う♪」とつぶやきながら、おじぎをしていました。保育者がたずねると、「いつも僕におじぎしてくれるから、僕もおじぎしてるの。」と e 君。保育者はほほえみながら、「そうね、いつもおじぎしてくれてうれしいものね。先生もおじぎしよう。」と言い、e 君と一緒にオジギソウに手を触れ、おじぎをしました。とてもほのぼのとした温かい気持ちになりました。

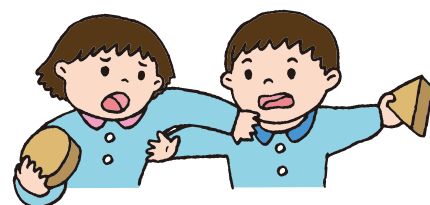
それぞれのやりたいこと

4歳児6月

H児がままごとをして遊んでいるところにI児が「入れて。」と言って入ってきました。H児は「いいよ。」と答えて二人で遊び始めました。

しばらくすると、H児の「Iちゃん、だめ。やめてよ!」という大きな声がしました。

「先生、Iちゃんが食べ物持って行っちゃう!」とH児。H児とI児はままごとの食べ物を取り合っています。



ここがポイント!

- 仲良く遊ばせようと急がずに、それぞれの思いを実現していきましょう。

「うちの隣にレストランを作りたいか。」

保育者が遊びの場を見ていると、H児はテーブルに食べ物を置いていて、I児は積み木で組み立てた家のそばに食べ物を並べていました。

保育者は互いの思いが話せるよう、「Iちゃんは積み木に食べ物を並べているのね。どうしてなのかな。」と問い掛けました。「レストランなの。」とI児。保育者は「そう、Iちゃんはレストランにしようとしていたのね。」とI児の気持ちを受け止めました。また、「Hちゃんは どうして積み木の方に持って行ってほしくなかったの。」とH児が遊んでいたイメージを話せるよう働き掛けました。「だって、うちにして遊んでいたんだもん。」とH児。

保育者はH児とI児の思いの違いを整理した後、I児に「Hちゃんはここをうちにして遊んでいたんだって。レストランにはできないみたいね。」と伝えました。その後I児と相談し「うちの隣にレストランを作りたいか。」と、H児とI児の遊びの場を分けて近くに設定し、それぞれの遊びを続けられるようにしました。

その後H児とI児は「お隣」として、行き来をしながら遊びました。

- それぞれの思いを保育者が受け止め、整理することで、自分とは違う相手の気持ちに気付きます。このことは、互いの思いに共感する素地になります。

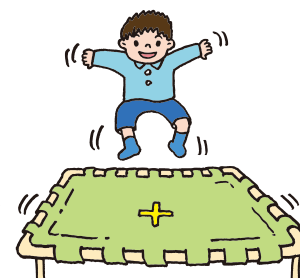
必要を感じて、ルールを決める

4歳児9月

トランポリンは人気のある遊具です。バランスを取りながら、ジャンプをするのが楽しくなっています。

5、6人の幼児が集まってきました。どの幼児も早くトランポリンをしたくて、順番を争って乗っていますが、トランポリンには一人ずつ乗るという、クラスの決まりは守っています。

様子を見ていた保育者は、「順番にしたらどうかな。」と言いながら、椅子を並べました。



ここがポイント!

- 幼児が自分から気付いて、ルールを考えようとする機会を大切にしましょう。

「私が言ったの。」「そう。けんかになっちゃったから。」

椅子が並び、幼児たちは椅子に座ります。しかし、順番がきたJ児はなかなか代わろうとしません。「Jちゃん、ずるいよ。」と声が上がります。するとK児が「じゃあ、10回ずつにしようよ。」と提案します。みんなも賛成し、一人がジャンプする回数を10回ずつにすることにしました。どの幼児も自分の順番を安心して待っています。

その後、「入れて。」と仲間に入ろうとする友達に、「じゃあ、椅子をもってきてね。10回ずつだよ。」と伝えています。保育者が、「10回ずつって決めたのですね。」と声を掛けると、その場にいる幼児は「私が言ったの。」「そう。けんかになっちゃったから。」と言ったり、うなずいたりし、満足そうな表情になりました。

- 自分なりに考えた方法で楽しく遊んだ経験の積み重ねが、ルールの必要性を感じ、自分たちでルールを作り、守って活動することにつながります。

〈この姿の背景には…〉

同じような場面でのそれまでの幼児の経験や保育者の関わり方が、幼児が判断し行動する際の基準になっていきます。

4歳児後期（11月頃～3月）

ねらい

- ◆ 葛藤体験を繰り返す中で、自分の気持ちを調整しようとする。
- ◆ クラスの活動の中で、役に立つうれしさや自分なりにやり遂げた満足感を味わう。

《関わり》

親しみ
自己発揮
共感
調整
など

- ・ 友達の思いや考えを部分的に受け入れ、一緒に動いたり相手に応じたりすることを楽しむ。
- ・ 友達との遊びの中で、自分の思ったことを言葉や動きに表し、それを相手に受け止めてもらううれしさを感じる。
- ・ 年長児との関わりの中で、憧れの気持ちをもち、同じようにしようとする。
- ・ 友達とのつながりを感じながら、クラスみんなで過ごすことを楽しむ。
- ・ 行事などを通して地域の方と関わり、親しみをもつ。
- ・ 友達と思いがぶつかり合う場面でどうしたらよいか考えたり、周囲の幼児が、解決に向けて自分なりに考えたことを、当事者に伝えたりする。

《自立》

自信
判断
身だしなみ
礼儀
など

- ・ クラスの活動や行事などの中で力を発揮したことを認められ、満足感や自信をもつ。
- ・ よくないこと、危険なことをしている友達を見て、止めようとする。
- ・ 友達とのやり取りの中で、自分なりに考えたり行動したりする。
- ・ 必要に応じて、衣服の調節を自分で行う。
- ・ 当番活動に取り組み、役に立つうれしさや満足感を味わう。

《規範》

決まり
ルール
マナー
など

- ・ 友達と生活する中で決まりや約束の大切さを感じ、守ろうとする。
- ・ 避難訓練や安全指導を通して、安全な行動の仕方や集団での動き方が分かり、自分からやってみようとする。
- ・ 共同の遊具や用具を大切にし、順番に使ったり一緒に片付けたりする。
- ・ 遊びながらルールを理解したり、ルールを守って遊ぶ楽しさを感じたりする。
- ・ ルールや勝敗がある遊びを通して、思い通りにいかない悔しさを自分なりに受け止めながら、遊びを楽しむ。
- ・ 公共の場所での行動の仕方が分かり、自分なりに望ましい行動をしようとする。

保育者の関わりで大切にしたいこと

- 友達に思いや考えが伝わった喜びを感じたり、互いに受け入れて遊んだりすることで、遊びが楽しくなることに共感する。
- 葛藤している場面では経緯を把握しながら見守り、自分の気持ちを調整しようとする幼児を支える。
- 思いがぶつかり合うときには、自分たちなりに思いや考えを出し合う姿や、周りの幼児と一緒に考えている姿を大切にする。状況に応じて保育者が間に入り、周りの幼児も含めて、一緒に考えていくようにする。
- 様々な人との関わりの中で、相手が喜ぶ姿を具体的に言葉に出して伝え、幼児が自分のしたことを実感し、満足感を味わえるようにする。
- 一人ひとりのよさをクラス全体の話の中で話題にして、自信を付けたり、友達のよさに気付いたりできるようにする。
- ルールのある遊びを楽しむ中で困ったことなどを出し合い、ルールの必要性を意識付けたり、みんなで考えたりする。



家庭とともに

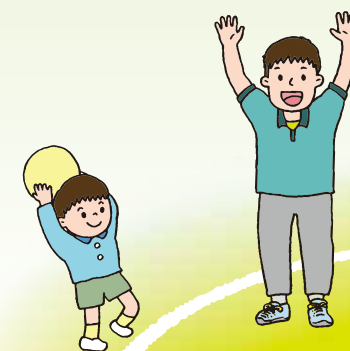
- 一人ひとりが自分の力を発揮することで自信を付けていく時期であるため、我が子を始め周囲の幼児それぞれのよさを、様々な立場の大人が認めることが大切であることを伝える。
- 葛藤を通して体験する場面や内容を具体的に伝え、家庭でも気持ちを受け止めながら見守ってもらうようにする。
- 幼児が園生活で楽しんでいるゲームを親子で体験するなどの機会を設け、幼児の姿を見てもらうとともに、ルールがある遊びの楽しさや大切さを、保護者が感じたり考えたりできるように働き掛ける。

一緒にやってみよう ～ルールのある遊びを一緒に楽しむ～

【目的】 幼児が楽しみ始めた遊びを保護者が一緒に行うことで、ルールのある遊びの楽しさや負ける悔しさなどを幼児とともに味わう機会にする。また、ルールのある遊びを通して幼児が学んでいることへの理解を図る。

【内容】

- ・ 幼児が楽しみ始めたルールのある遊びを、保護者が一緒に行う機会を設定する。（中当てドッジボール、しっぽ取り、助け鬼などクラスの実態に応じて）
- ・ 保育参観、降園後の園庭開放の時間など、保護者が参加しやすい時間を設定する。また、安全面や保護者の活動量を確保するため、参加者が適当な人数になるように工夫する。
- ・ 保育者が、一緒に楽しむモデルとなる。また、活動後にその日の場面を通して、幼児が経験していたことを具体的に伝える。
- ・ 保護者自身が楽しんだり悔しいと思ったりすることを、保育者が大切に受け止める。



こどものつぶやき

「半分だけ仲直りだよ」

いつも仲のよいf君とg君。うっかりぶつかって積み木がくずれてしまい、大げんかになりました。お互いに怒って口もきかずにいましたが、しばらくすると表情が落ち着き、「半分だけ仲なおりましたよ。」とg君が言いました。

まだ、怒った気持ちも残っているけれど、仲良しの友達とまた遊びたい。その思いが、気持ちを調整することを後押ししているのですね。

自分の気持ちと向き合う

4歳児11月

今日は楽しみにしていた絵本の貸出しの日です。L児は以前に保育者が読んだ絵本を選びました。バッグにしまおうとしているとM児がやってきて「ぼくが借りる!」と絵本を取り上げようとしています。L児は「嫌だ!」と絵本を抱え、M児と引っ張り合いになり泣き出しました。

その過程を見ていた幼児や、泣き声に気が付いた幼児が周りに集まってきました。保育者は、幼児の様子を見守ることにしました。

幼児たちは「Lちゃんが嫌だって言っているんだからやめなよ。」など、思ったことを口々に言い、M児は怒った表情のまま手を引きます。

「Lちゃん、嫌だったね。」「悲しかったね。」と声を掛けたり、頭をなでたりと、周りの幼児はL児を慰めようとしています。M児は何も言わず、怒った表情をしています。



ここがポイント!

- 時間をかけて自分と向き合い、気持ちを調整する機会を大切にしましょう。

「昨日はごめんね。」

しばらくして保育者が声を掛けると「ぼくも見たかった。」とM児。「そう。M君も見たかったんだ。でも、無理に取ろうとしたから、L君びっくりしたよね。」と言うと、M児は「うん。」とうなずきました。

翌日の朝、L児とM児は身支度をしながら、前日のテレビの話題で盛り上がっています。するとM児が「昨日はごめんね。」と言いました。L児は照れくさそうに「いいよ。」と言い、2人でふざけ合い始めました。「M君、『ごめんね』って言えたのですね。」と保育者が言うと「仲直りしたんだ!」と満足そうにM児が言いました。

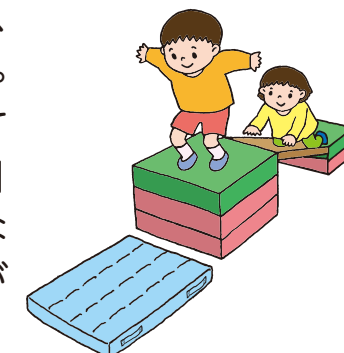
- けんかなどの葛藤場面で、周りの友達や保育者に言われたことをきっかけに自分と向き合い、気持ちの調整をしようとするようになっていきます。
- 友達の様子を見ることは、友達の思いを察したり善悪を自分なりに判断したりすることにつながります。

危険なことに気付いて行動する

4歳児2月

巧技台を自分たちで組み立てて遊ぶようになってきた4歳児。組み立てながら、一本橋のところで「ここは危ないな。」と言って、友達と一緒にマットを運び、一本橋の下に敷いています。

遊び始めると、「Nちゃんが行ったら、次の人が行っても大丈夫だね。」「そこからジャンプするのは危ないよ。」など、一緒に遊んでいる友達の行動をよく見て、自分なりに判断したり、危険な行動を注意し合ったりする姿が見られます。



ここがポイント!

- 安全に気を付けて遊ぶ機会をつくり、そこでの幼児の気付きや行動を、クラスの中で十分に認めましょう。

「こうすると、危なくないね。よく気が付きましたね。」

幼児は、その後も体を動かすことを十分に楽しみながら、危なくないように遊ぶために必要なことに気付き、そのために必要な準備をしたり声を掛け合ったりしていました。

保育者は、片付ける前に皆を集めさせ、その日に幼児が気付いたり直したりしたことを、その場所を見ながら全体に伝えました。そのとき、「こうすると危なくないね。よく気が付きましたね。おかげで、みんなが楽しく遊べました。」と子供の気付きや動きを大いに認めました。

幼児は「また遊ぼうね。」と言い合いながら、満足した表情で最後まで片付けていました。

- 遊びや生活に必要なことに気付いて行おうとする姿を認め、実現できるようにしていくことが、クラスの中で力を発揮し自信をもつことにつながります。このことは、自分で考えて行動する素地にもなります。

〈この姿の背景には…〉

- ・ 巧技台の扱い方や安全な遊び方などは、保育者が繰り返し教え、身に付けさせてきています。そのことが、友達と一緒に組み立てたり遊んだりすることができ、危険な場面に気付いたり、4歳児なりに必要なことを考えて行動することにつながっています。
- ・ 巧技台のように大きく重い遊具を扱う際には、保育者がそばに付き、安全を確保した上で幼児に行わせることが必要です。
- ・ けがにつながるような危険な行為や巧技台の組み方に対しては、その場で毅然とした態度で教えることが大切です。

◆ 安全指導の工夫

安全指導では、時期や幼児の実態に応じて活動の工夫をすることで、幼児がその必要性をより強く感じながら活動することができます。

また、確実に身に付けさせたい行動は、合図や手順、行動などを常に一定にして、積み重ねていくことが大切です。

平成25年度 東京都教育委員会安全教育推進校 千代田区立番町幼稚園の取組から

「こんなときは どうする？」

3歳児（3年保育）

〈防災教育用カード「ぼうさいダック」や絵表示の活用〉

指導方法の工夫

- ・ 自分の身を守るためには様々な動き方があることを、幼児向け防災教育用カードや絵表示等を見せながら確認する。
- ・ 実際に体を動かしながら遊ぶことで、自分の身を守るための動き（※）が自然に身に付くように指導する。

実際の取組

- ◎ 保育者のリードでゲーム遊びをしながら、安全な身の守り方のポーズを行う。
保育者「起きた 起きた」と節を付けて言う。
幼 児「何が起きた」と答える。
保育者「地震が起きた」とカードを示す。
幼児はその場でしゃがんで、頭を守る「ダックのポーズ」をする。



※＜自分の身を守るための動き＞

- ・ 地震：ダックのポーズ（頭を守る。）
- ・ 台風：うさぎのポーズ（うさぎのように耳を立てて黙って情報を聞く。）
- ・ 火事：たぬきのポーズ（ハンカチを口に当てて、姿勢を低くする。）
- ・ ハチ：ぞうのポーズ（慌てて動かずに、ゆっくりハチから離れる。）

カードゲーム「ぼうさいダック」

この教材は、安全・安心の「最初の第一歩」を子供たちが実際に体を動かし、遊びながら学ぶためのカードゲームです。指導項目は、日常の危険（災害、交通事故、犯罪）に対する対応や、挨拶、マナーについて学べるカードも含まれています。

カードの表面には危険（身の回りの危険、災害）のイラストが、裏面にはポーズをとっている動物のイラストが描かれています。

「幼児用総合防災教育教材の作成に係る検討委員会
—報告書—
(東京消防庁 平成21年3月) から

「いつも見ているよ みんなのことを」 4歳児（3年保育）

〈保育室内のテレビモニターの活用〉

指導方法の工夫

- ・ 地域の方の顔写真を見せ、身近な存在であると感じられるようにする。
- ・ 地域の方が心配していることとして、マンションの駐車場やエントランスで遊ぶことの危険性を話す。その際は、実際の場所の写真を見せ、なぜ危険かを幼児に考えさせるようにする。

実際の取組

- ◎ 子供祭りや運動会等で来園されたときの写真をテレビモニターに映し、地域の人が自分たちのために活動してくれていることや、応援してくれていることなどが分かるように具体的に話す。
- ◎ マンションの駐車場やエントランスの写真を映しながら、こうした場所で遊ぶとどんなことが危ないかを幼児に聞き、気付かせる。また、幼児が気付いていない危険性（死角になることで、助けることができにくい等）を教える。

「『まもる君』でいられるかな？」

5歳児（3年保育）

〈園内の安全マップの作成、活用〉

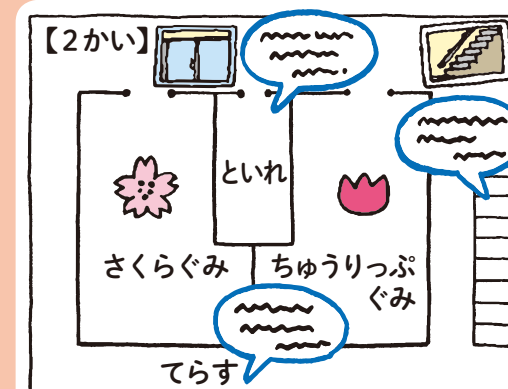
指導方法の工夫

- ・ 幼稚園内の地図を見せ、生活をしていて困ったことや自分に起こった危なかったことなどを聞き取っていく。地図の中で実際の方が分かりやすいよう、園内の写真を添付する。
- ・ 吹き出しの形をしたシールカードを用意し、話しきれなかったことや新たに気付いたことなどを幼児が書き込んで貼ることにより、園内の安全マップを作り上げて、幼児の意識を高める。

実際の取組

- ◎ 新しく吹き出しを貼った幼児に、なぜ貼ったのか、どのように気を付けるとよいと思うかを、皆の前で聞く。幼児同士で考えを出し合う。
- ◎ 「なぜいけないのか」だけではなく、「なぜそうすることがよいのか」という観点で、幼児に確認し、考えを引き出す。
- ◎ 幼児が経験したことを「まもる君」「うっかりさん」などの、安全指導の中で使っている言葉を使いながら、安全に対する意識が高まるようにする。

※シールカードへの記入は、保育者が聞き取って書く、補足するなど、幼児の実態に応じて援助する。



5歳児前期（4月～10月頃）

ねらい

- ◆ 互いの考えや思いを受け止め、友達とのつながりを感じながら自己発揮し、遊びを進めていく。
- ◆ 生活を進める中で必要なことに気づき、友達とやり方や決まりなどを考え、一緒に取り組む楽しさを味わう。

《関わり》

親しみ
自己発揮
共感
調整
など

- ・ 友達の考えを聞いたり、自分の考えを話したりして、言葉で伝わるうれしさを感じる。
- ・ 年下の幼児や地域の方との関わりを通して、親しみの気持ちや相手を思う気持ちをもつ。
- ・ クラスや学年の友達と一緒に活動する中で、友達とのつながりを感じながら自分の力を発揮する。
- ・ 友達と一緒に目的に向かって活動を進め、気持ちを合わせる心地よさや、やり遂げた満足感を味わう。
- ・ うまくいかないことを通して、友達の思いや考え、提案に気づき、受け止めようとする。

《自立》

自信
判断
身だしなみ
礼儀
など

- ・ 課題活動の中で自分の行うことが分かり、見通しをもって自分の役割に取り組もうとする。
- ・ 分からないことなどを自分から聞いて、解決を図ろうとする。
- ・ やってよいこと、悪いことが分かり、自分なりに考え、行動しようとする。
- ・ 汗を拭くこと、衣服の調整、手洗い、うがいなどを、自分で気付いて行う。
- ・ 年下の幼児や地域の方との関わりの中で、すすんで挨拶をしたり、自分なりに相手に応じて接しようとしたりする。

《規範》

決まり
ルール
マナー
など

- ・ 園生活の決まりや、してはいけないことの意味が分かり、自分たちで知らせ合ったり確認したりして守ろうとする。
- ・ 保育者や友達と遊びのルールを確認したり、一緒につくったりし、ルールを意識して遊びを進めようとする。
- ・ ルールのある遊びの中で、友達と力を合わせることや競い合うことを楽しむ。
- ・ 当番活動や係の仕事など、生活の中で必要なことに気づき、自分たちで行っていくとする。
- ・ 危険なことを自分なりに判断し、安全に遊んだり生活したりしようとする。

保育者の関わりで大切にしたいこと

- 幼児の発言を肯定的に受け止め、安心して何でも言い合えるクラスの雰囲気をつくり、様々な出来事をグループやクラスで話し合っていく。
- 自分たちで考え、やってみたいと思えるような場を多く設定し、その中で自分の力を十分に発揮できるようにする。
- 幼児が互いの思いを言葉で出し合えるよう仲介し、友達の思いに気付かせたり、対処の仕方を伝えたりする。葛藤やつまづきを乗り越えていけるよう、励ましたり見守ったりしていく。
- 生活や活動への見通しがもてるように、図や表を使うなど示し方を工夫する。
- 進級して張り切っている気持ち、役に立ちたい気持ち、自分たちで生活を進めようとする気持ちなどを受け止め、実現できるように援助する。
- ルールのある遊びでは、困ったことを出し合ったり、ルールを確認し合ったりさせ、自分たちで解決していけるように意見を調整したり、見守ったりする。
- 自分たちで生活の仕方や決まり、ルールなどを考え、守っていく機会を設定し、守ることでみんなが気持ちよく生活できることを価値付ける。



家庭とともに

- 5歳児の規範意識の大まかな発達について、園での取組や家庭で大切にしてほしいことを合わせて伝え、園と家庭で共に「自律」に向けて幼児に働き掛けていけるようにする。
- 幼児の間で起こった出来事を通して、友達との関わりの中で育つことなどについて具体的に伝える。
- 幼児の話をしっかりと聞き、励ましの言葉を掛けるなどして、園と家庭がともに温かく見守り、幼児が自分の力で生活を進められるよう支援していく。
- 親子の触れ合いの機会を設定し、子供の成長の様子を見ることを通して、幼児の規範意識の芽生えを培うために、大人としてどのように行動するかを考えるきっかけとする。

地域へ出かけましょう ～幼児の経験を豊かにする～

【目的】 地域の施設や、催し物などに参加することが、幼児が様々な人と交流し、その場に合った行動を経験する機会になることへの保護者の理解を図る。

【内容】

- 地域の催し物などの情報（町会のイベント、祭り、ラジオ体操、図書館や児童館等の情報など）をプリントにして、保護者会で配布したり、掲示板に貼ったりする。
- 散歩や遠足等を通じて学んでいる公共の施設での決まりやマナーを、幼児のエピソードを交えながら、保護者に具体的に伝える。
- 幼児は、信頼する大人の行動をまねながら場に合った行動を身に付けていくことを保護者に伝え、地域等に出掛ける際に、振る舞いを意識してもらうように伝える。
- 親子で出掛けるとよい場所、出掛けるときの決まりやマナーで心掛けていることなど、保護者同士の情報交換の場を設ける。



こどものつぶやき 「だってみんなのリレーだから」

みんなでリレーをしているときに、hちゃんがカーブで転びました。でも、すぐに顔をしかめながら立ち上がり、再び走り出しました。みんなは「hちゃん頑張れ！」と夢中で応援しました。

リレー終了後、「あんなに転んでも走れるなんてすごい。」「私なら泣いちゃうかも。」「あっぱれだね。」と、チームのみんながhちゃんを讃えました。すると「だってみんなのリレーだから。」とhちゃん。その言葉を聞いた友達は「hちゃんありがとう。」と言いました。リレーでは負けてしまいましたが、友達とのつながりを感じ、最後まで頑張る大切さを学んだひとコマでした。

遊びが進まない場面を乗り越える

5歳児6月

水族館への遠足の翌日。共通体験を基に大まかなイメージを共有して遊べるように、保育者はきっかけとなる場や材料を設定しておきました。興味をもった幼児が自由に材料を選択して魚を作ったり、「イルカショーしようよ。」と誘い合い、イルカになったりして遊び始めました。

しばらくすると〇児が「これじゃあイルカショーができないよ。」と怒り始めました。イルカ役の友達が泳ぐことに夢中で、〇児の合図に気付いてくれないようです。



ここがポイント！

- 遊びが進まない場面では、一人ひとりが自分の思いを表して、乗り越えられるようにしましょう。

「もう1回やろう。」「音楽、スタート！」

保育者が一人ひとりに話を聞くと「水族館で見たショーみたいになりたい。」という共通の思いがあることが分かりました。保育者が音楽をかけることを提案すると「この歌のところでジャンプすることにしよう。」「ここはこういう踊りね。」と相談が始まり、息が合ってきました。

その後、「もう1回やろう。」「音楽スタート！」などと声を掛け合い、繰り返し楽しんでいました。自分になりたい役になって伸び伸びと表現する楽しさや、友達と合図や動きが合ううれしさを感じている様子が見られました。

〈他にもこんな姿が…〉

- P児が「お魚と一緒に写真が撮れるコーナーを作りたい。」と言うと、Q児が「水族館にそんなのなかったからダメだよ。」と言いました。P児は困った様子です。保育者がP児のアイデアを認めると、P児は張り切って準備を進めました。出来上がってくると、Q児は「面白いね。Pちゃん、撮って。」と言い、写真コーナーがにぎわっていききました。
- 数人の幼児が年少児を呼ぶために準備をしている最中に、他の幼児が年少児を呼んできてしまいました。「まだ練習中なのに。」「勝手に呼ばないで。」など、それぞれが自分の思いを言いました。保育者は様子を見守りながら、準備ができたか友達に確かめてから呼ぶとよいことを確認しました。翌日、皆で準備を整えて年少児を招待することができ、年少児が喜び姿を見て「大成功だね。」と友達と喜び合っていました。

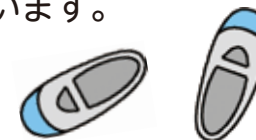
- 大まかなイメージを友達と共有しながら、一人ひとりが十分に活動することは、相手の思いや考えを受け止めて行動することにつながります。

自分たちで生活の決まりを考える

5歳児9月

みんなの大好きな絵本コーナーで5人の幼児が絵本を読んでいます。絵本コーナーのマットには、上履きを脱いで上がる約束になっています。

幼児は約束を守り、上履きを脱いで上がってはいますが、脱いだものはあちこちに散乱しています。



ここがポイント！

- 先行経験を生かして、生活の決まりを考えましょう。

「ここに並べるんだよ。」

保育者が絵本コーナーにいる幼児に「上履きがあちこちに転がっているけれど、どう思う？」と声を掛けると、慌ててそろえました。「先生に言われなくても、そろえられるとうれしいな。」と保育者が言うと、R児ははっと気付いた様子で、どこかに行きました。しばらくすると戻ってきて、「上履きを置くマークを付ければいいんだよ。」と言いました。トイレにサンダルを置くマークが付いていたことを思い出し、確認してきたようです。そして、画用紙に上履きの絵を描いて切り抜き、絵本コーナーの前の床に貼りました。

R児の作ったマークに気付いた幼児がその上に上履きを置くと、後から来た幼児はその横に並べて置いています。「ここに並べるんだよ。」と、友達に教える姿や、「これ、いい考えだね。」と言う姿も見られました。

〈他にもこんな姿が…〉

- 花壇に入ってしまう年少児に、入らないように知らせたい。
→ 球根や苗を植えたときに花や野菜の表示を作ったことを思い出し、「はいらないでね」という表示を作って立てておく。
- クラスのボールが、使った後に見付からなくなってしまうことが多い。
→ ボールが入る空き箱を見付けて、「ぼおるおきば」と表示をし、クラスの中に置き場所を作る。

- 必要感をもって自分たちで考えたり決めたりすることで、守ろうとする意識が高くなります。
- 園生活の決まりを守って行動することは、公共のマナーを守ることにもつながります。

5歳児後期（11月頃～3月）

ねらい

- ◆ 共通の目的に向かって、友達と互いのよさを認め合いながら協力してやり遂げる充実感を味わう。
- ◆ 場面や状況に応じて必要なことを考え、自分なりに判断して行動する。

《関わり》

親しみ
自己発揮
共感
調整
など

- ・小学生との交流などを通して、憧れや親しみの気持ちをもつ。
- ・自分の力を発揮したり、友達のよさを認めたりしながら遊ぶ。
- ・クラスの友達と一緒に、目的に向かって役割を感じながら活動を進め、気持ちを合わせる心地よさややり遂げた満足感を味わう。
- ・自分の考えを相手に分かるように話したり、相手との考えの違いに気付いたりする。
- ・友達の考えを受け入れたり折り合いを付けたりしながら遊ぶことで、面白くなることを実感する。

《自立》

自信
判断
身だしなみ
礼儀
など

- ・様々な人に自分のことを認めてもらう経験を通して、自信をもって行動する。
- ・年下の幼児に対して親しみをもって親切に関わり、相手が喜ぶことを通して満足感や自信をもつ。
- ・今は何をすべきかを自分なりに判断し、状況に応じた行動をしようとする。
- ・身近な人（高齢者、年下の幼児、地域の人など）との関わりを通して、相手に合わせた言葉遣いを考えたり、意識して行動したりする。

《規範》

決まり
ルール
マナー
など

- ・公共の場での過ごし方や交通安全のルールが分かり、守ろうとする。
- ・生活に必要なルールや危険なことについて理解し、意識して行動する。
- ・友達と一緒に遊びをつくり出す中で、必要に応じて新たなルールをつくったり、自分たちで考えたルールを守って遊んだりする。
- ・生活に必要なことや当番活動に、友達と声を掛け合って取り組む。
- ・クラスや共有の場所での整理や片付けを、友達と協力してすすんで行う。
- ・生活の流れや活動に自分なりに見通しをもち、時間を意識して行動する。

保育者の関わりで大切にしたいこと

- 一人ひとりの頑張りや取組を伝え合う機会を通して、互いに認め合う雰囲気をつくる。
- 友達との関わりの中で互いの思いを理解できるように、相手の言葉や表情、行動に自分から関心を向けられるようにする。
- グループの取組の中で、一人ひとりが十分に自己を発揮して、互いのよさを活かしながら遊ぶ機会を意図的に設定し、やり遂げた満足感を味わえるようにする。
- 年下の幼児が喜ぶ姿や年長児に憧れている姿を意識的に取り上げて伝え、他の人の役に立つ喜びを感じることを、満足感や自信につなげていく。
- 自分なりに判断して行動しようとする姿を認め、自信につながるように関わる。
- 様々な人との関わりや園外の施設を利用するなどの機会を通して、幼児の状況に応じて行動しようとする意識を育てる。



家庭とともに

- グループ活動の中で経験すること（友達と相談したり折り合いをつけたりしながら進める、相手の考えや立場を尊重する、自分の役割を果たすなど）が、規範意識の芽生えにつながることを伝える。更に、そのことが小学校での生活や学習の基盤になることを伝え、我が子やクラス全体としての成長への理解が深まるようにする。
- 就学に向けて、時間を意識した行動、交通安全への意識、公共の場所でのマナーなどを一人ひとりが身に付けられるよう、家庭と連携して確認していく。
- 園での幼児の成長の様子を具体的に知らせて、家庭でも大いに認めてもらい、自信につなげていく。
- 家庭での手伝いを継続することが、幼児の家族の一員としての誇りや自信となり、今後のよりよい成長の基盤になることを伝える。合わせて、当番活動や園の仕事を担っている幼児の姿を紹介し、家庭での手伝い内容のヒントにしよう。

学校へ行こう ～就学前教育カリキュラム（P.112）の活用～

- 【目的】 幼児が保護者と一緒に小学校まで歩いて行くことを通して、親子で安全に気を付けて行動する機会にする。
- 【内容】 保護者会などで、就学に向けての話の中で、以下のような地図とカードを配布し、親子で取組んでもらう。その際、幼児が自分で気を付けながら行動できるように見守るなど、大人の関わり方の例も伝える。

〇〇しょうがっこうまでのちず



- ① いえのひとといっしょに、しょうがっこうまでのちずをかいてみましょう。
- ② めじるしには、ほしのシールをはりましょう。
- ③ ちゅういしてとおったほうがよいみちは、きいろでぬりましょう。
- ④ こども110ばんのばしょにしるしをつけましょう。

がっこうへいこう！！

もうすぐ1ねんせい。
いえのひとといっしょに、
がっこうまで
あるいてみましょう。



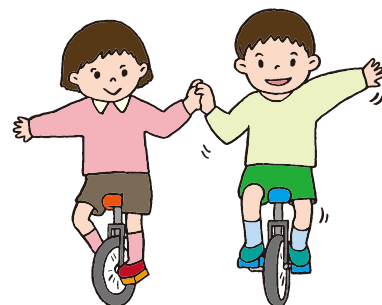
歩いたら、□にシールを貼ります。

一人ひとりのよさをクラスに広げる

5歳児11月

S児とT児は、一輪車の練習中です。何度も転びながら頑張る二人。ある日、S児が転ばずに数メートル進むと、T児は「Sちゃんすごい！いっぱい進んだね！」と、自分のことのように喜んでいきます。その後もS児は、T児や保育者に認められながら何度も挑戦し、スムーズに乗れるようになりました。

しばらくするとS児がT児に「前をまっすぐ見るといいよ。」「そうそう、Tちゃん頑張って！」など、自分が見つかったコツを伝えたり、励ましたりしていました。保育者はS児に「Tちゃんがたくさん応援してくれてうれしいね。」、T児には「Sちゃんが教えてくれて、一緒に乗れるようになるのが楽しみね。」と伝えました。そしてクラスの集合時に、二人の姿を紹介することにしました。



ここがポイント！

- よさを認め合う場面を意図的に設定し、様々な友達に認められることを通して、自信につなげていきましょう。

「じゃあSちゃんは、教えてくれる名人だね。」

保育者が「今日、とてもすてきなことがあったの。Sちゃんが一輪車に乗れるようになったの。そうしたら、一緒に頑張っているTちゃんが『Sちゃんすごい！』って、とっても喜んでくれたのよね。」と言うと、S児はうれしそうにうなずきました。すると「この前、私が鉄棒できたときも、Tちゃんが『すごい』って言ってくれたよ。」「僕も！」と、数人から声が上がりました。保育者は「Tちゃんに『すごい』って言ってもらってうれしかった人が、こんなにたくさんいたのね。Tちゃんは、お友達のすごいところを見付ける名人ですね。」と言いました。更に保育者は、S児が一生懸命にT児に乗り方を伝えたり、励ましたりしていた姿も伝えました。すると他の幼児が「じゃあSちゃんは、教えてくれる名人だね。」と言いました。二人は目を見合わせてうれしそうに笑いました。

- 様々な友達とよさを認め合うことは、大きな集団の中で自信をもって行動することにつながります。

一人の気づきをクラスの実践につなげる

5歳児1月

片付けの時間になり、みんなが保育室に入ったのに、U児だけがまだ園庭に残っています。

しばらく歩き回って戻ってきたU児は、「おもちゃが残っていないか、見回りしてきたよ。ボールが落ちてたから、片付けてきた。」と言いました。



ここがポイント！

- 一人ひとりが自分で考えて行動したことを価値付け、友達の姿からみんなのこととして考えられるようにしましょう。

「見回り隊、っていう名前にしようよ。」

みんなのことを考えて片付けている姿をうれしく思い、保育者が「ありがとう。みんなが喜ぶね。」と伝えると、U児はにっこりと笑いました。

集まりのときに、保育者はU児の行動について、クラスの幼児に知らせました。U児は、「えらいね。」「ありがとう。」と友達から言われてうれしそうでした。

その後、「今度は僕も手伝うよ。」「片付け当番をつくったらいいんじゃない。」「じゃあ、見回り隊っていう名前にしようよ。」などと、活発に考えが出されました。共用の物や場所をみんなで大切にしようとする機会になるとともに、「見回り隊」は、クラスの活動になりました。

- 自分で考えて行動したり、友達の姿を見て学んだりは、状況に応じて必要な行動をしようとする姿勢につながります。

〈自分で考えて行動しようとする機会を多くもちましょう〉

様々な人との関わりや園外で活動する中で、幼児がこれまでの経験を基に、自分で考えて実際に行動することを大切にしましょう。

- 例 年下の幼児に生活の引継ぎをする：相手に分かるような話し方 年下の幼児への接し方
図書館等公共の施設を利用する：往復の集団行動の仕方 館内での過ごし方
施設の職員の方との接し方
小 学 校 を 訪 問 す る：挨拶の仕方 授業中の校内の歩き方
教師や児童との関わり方 など

使ってみませんか？〈資料等〉

下記は、全国国公立幼稚園長会が発行しているリーフレットの表紙の絵です。日常の園生活に即した出来事が描かれており、保育者、保護者が「規範意識の芽」について共に考える資料として提案されています。園生活での様々な経験を重ねて、物事を客観的に捉える力が育つ中で、幼児の様々な気付きや考えを話し合うきっかけとしても活用することができます。



表紙の絵から規範意識をはぐくむストーリーを作ってみましょう！

規範意識をはぐくむきっかけは、生活のどの場面でも見つけることができます。

小さなできごとや体験の積み重ねの中で、幼児が漠然と感じている生き方や人のかかわり方に関するマナーなどを、教師がタイムリーに意識付けていくことが大切です。表紙の絵から規範意識をはぐくむ芽を見つけ、子どもの心の育ちにに応じてどのように意識付けるか、どのようなモデルを示すかなど、あなたのストーリーを作ってみましょう。

例えば、砂場で大型シャベルを使っている場面から



注意を喚起する、謝るよう促す、困ることを主張するように誘導するなど、一つの場面でも、一人一人の幼児の発達状況や、その場面に居合わせる幼児集団の発達状況によっても教師の援助は異なります。

特別事業2010 リーフレット「育てよう 規範意識の芽」から

(全国国公立幼稚園長会 平成22年10月)

<http://www.kokkoyo.com/details/leaflet.html>

◆ 子供と一緒に、ひとこと

皆さんが子供の頃に感銘を受けて、今でも心に残っている言葉（ことわざや故事成語、詩など）はありませんか。保育の中で幼児と共に「合言葉」のように使ってみるのはいかがでしょうか。励まされる言葉、心が浮き立つ言葉、自己を見つめる言葉…意味が今は分からなくても、幼児の心の支えになっていくことでしょう。

親しき中にも礼儀あり
(ことわざ)

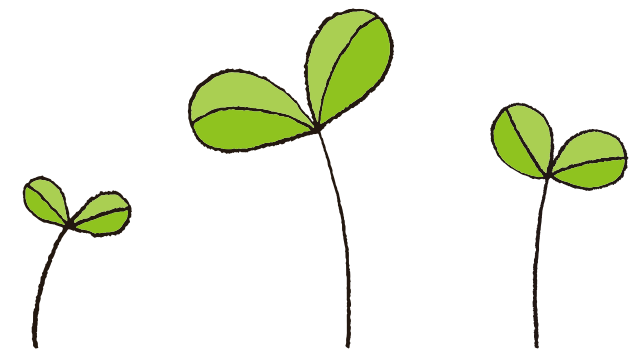
失敗は成功のもと
(ことわざ)

ドンマイ
(英語 “Don't mind” から)



第 3 章

関係機関等との連携



小学校への接続 ～小学校の生活や学習への円滑な接続に向けて～

就学前教育と小学校教育との接続を考える際には、今行っている保育・教育が小学校教育のどの部分につながるのか、入学後の児童の姿を具体的に知ることが大切です。その上で、日常の教育活動を捉え直すことが、円滑な接続へとつながります。

ここでは、「規範意識の芽生え」を培う視点から、小学校生活への接続を考えます。

「規範意識の芽生え」を培う視点から見た 小学校入門期（１年生　４月～７月）の児童の姿

《関わり》 親しみ 自己発揮 共感 調整 など	- 相手のことを受け入れ、協力して活動する。（係活動、当番活動、行事など。） - 友達と相談しながらルールを決めて遊んだり、一緒に何かを作ったりする。 - 友達や先生への親しみを深め、様々な思いを伝える。 - 友達のよいところやすてきなところが分かり、共感の言葉を掛ける。 - 思いやりのある態度で接する。（自分がされて嫌なことはしない。） - 担任以外の先生や学級以外の友達、上級生に親しみを感ずる。
《自立》 自信 判断 身だしなみ 礼儀 など	- 自分のやるべきことは、時間内に済ませる。（学習の準備、片付け、着替え、給食、トイレ、挨拶） - 自分の持ち物の管理や身の回りの整理整頓ができる。 - 時間を守り、学校生活の流れを理解して動く。（給食当番、掃除当番） - 休み時間と授業の切り替えができる。
《規範》 決まり ルール マナー など	- 学校や学級の決まりを守る。 - 話してよいときと悪いとき（時と場）が分かる。 - よいことを進んでやろうと考え、行動する。



保育者

- 小学校入門期の児童の姿を具体的にイメージし、目の前の幼児の姿とのつながりを考えてみましょう。
- 就学前教育のゴールを小学校入門期まで広げて考え、意識して指導に当たることで、円滑な接続につなげることができます。
- 保育者、小学校教員が共通の視点で、子供の姿や教育の内容・方法を協議することも重要です。幼児が経験していることを、積極的に発信しましょう。

新１年生には、様々な環境の変化が待っています。

- **物的な環境の変化**（施設の広さや扱う物の増加など）
- **人的な環境の変化**（教職員の人数、同級生、上級生など関わる人の範囲の広がりなど）
- **活動の形態の変化**（原則として集団行動になるなど）

児童が小学校での様々な変化を受け止めて、たくさんの仲間とともに楽しく生活する土台として、就学前教育で培われた**規範意識の芽生え**（「気持ちの調整をすること」「状況に応じて自分で考えて行動しようとすること」「決まりを大切に思うこと」など）が大きな力を発揮します。



小学校教員

<小学校生活の様子>

- 小学校では、集団の一員として先生や友達の話を聞く場面が増えます。自分が話をしたくても、先生や友達が話をしているときは最後まで聞く態度や、大事なことを落とさずに聞く力が求められます。

「**せ・め・て（せすじを伸ばして/めは相手を見て/ては膝に置く）**」でしっかりと聞く

→ キーワードを使うなどの工夫をして、相手の話をしっかりと聞けるように指導していきます。話がしっかりと聞けるようになると、クラスの話し合い活動も充実します。

- 小学校では、時間割に従って学習したり、休み時間を過ごしたりします。集団で生活しているため、一人ひとりが、次の活動の見通しをもって行動することが大切です。

集合時刻を守る

→ 全校朝会・集会など、集合に遅れると学年や全校に迷惑が掛かることがあるため、次の活動を見通して行動する態度が身に付くように指導していきます。

休み時間中に、次の学習の用意を済ませる

→ 小学校の５分休みは遊びの時間ではなく、トイレや水飲みを済ませ、次の学習の用意をするための時間です。短時間で気持ちを切り替えて行動できるようにします。

- 小学校には、学校、学級の決まりなど多くの決まりがあります。これは、就学前教育施設と同様に、「みんなが気持ちよく生活するため」のものです。そのため、自分だけでなく友達のけがや、周りの迷惑につながる行動については、強く注意されることもあります。

給食の配膳中は、話さないで過ごす

→ 給食の食缶には、熱いものや重いものがあるため、取扱いには注意が必要です。また、衛生面に気を付けることも大切です。そのため、当番は白衣やマスクを着用し、落ち着いて配膳します。当番でない児童も、手洗いやうがいを済ませ、静かに並んで配膳してもらいます。小学校における「気持ちよく生活する」姿の一例です。

子育ての支援を推進するために

就学前教育施設は、在園児の保護者への支援とともに、地域の子育て家庭に対する施設の開放、子育て等に関する相談の実施、保護者同士の交流の場の提供など、子育ての支援の役割を担っており、各園で様々な取組が行われています。

幼児期の「規範意識の芽生え」を家庭とともに培うためにも、保護者への支援は重要です。

日常の保護者との関わりから

子育てひろばや各園の施設開放などを利用する中で、保護者が安心して子育てをしたり、各施設での決まりを、子供に教えながら一緒に守ろうとしたりする姿が見られます。

(地域関係者)



子供が「いやだ!」「自分で!」と自己主張をするようになることは、成長の姿の一つですが、初めて子育てをする保護者の方の中には、そのことを知らない方もいます。「子供が言うことを聞いてくれない」「自分の子育てが間違っているのではないか」と、一人で悩んでしまうこともあるようです。

(保育・教育関係者)



それぞれの立場で大切にしたいこと

- **保護者**… 周囲とのつながりの中で、様々な子育ての方法や我が子に応じた接し方を知るなど、安心して子育てをすること。
- **地域関係者**… 地域の人と保護者、また保護者同士をつなぐ役割を担ったり、子育て中の保護者を支えたりすること。
- **保育者**… 保護者を支えていく意識をもち、保護者同士をつなぐ場の設定など、保護者を孤立させない関係づくりに努めること。
- **地域関係者**… それぞれの子供のよさを褒め、保護者の子育ての喜びや苦勞に共感
保育者 すること。

保護者に伝えたいメッセージ

- ◆ 子育ては思うとおりにならないことが多いもの。でも、大丈夫。それはみんなが通る道です。
- ◆ 子育ては、いつでもやり直しができます。まず、やってみましょう!
- ◆ 子供と保護者の組み合わせの数だけ、子育ての方法があります。子供と向き合いながら、自分らしい子育ての仕方を見付けましょう。



「規範意識の芽生え」を培うための大人の役割 検討委員会 協議から

子育て中の保護者の周りには、様々な相談できる人や機関（知人、祖父母、地域、行政、就学前教育施設など）があります。各園が近隣の地域の方や施設について把握して連携を図るとともに、折に触れて保護者に紹介していきましょう（P.54、55 参照）。

東京都の取組

東京都では、子育ての支援に関わる様々な取組を行っています。ここでは、東京都教育庁地域教育支援部及び心の東京革命推進協議会(青少年育成協会)での取組を御紹介します。各園における子育ての支援にお役立てください。

乳幼児期からの子供の教育支援プロジェクト〈東京都教育庁地域教育支援部〉 <https://www.syougai.metro.tokyo.lg.jp/sesaku/nyuyoji.html>

乳幼児期からの子供の発達を促すために、全ての親・保護者を対象に科学的知見に基づきながら、乳幼児期からの教育の重要性を伝えるとともに、地域において乳幼児と親・保護者を支援するための取組です。

1. 乳幼児期からの子供の教育支援の必要性を全都に普及させる取組

- 科学的知見に基づく子供の発達に関する保護者向け資料の作成
※ 資料の閲覧及びダウンロードについて、P.59で御紹介しています。
- ウェブサイトの開設、広報ポスター等による普及啓発

2. 乳幼児期からの子供の教育支援の取組を地域に定着させる取組

- 地域における乳幼児期と親の「社会的つながり」を促す試行的取組
- 地域の担い手の養成と指導者手引の作成

心の東京革命〈心の東京革命推進協議会（青少年育成協会）〉 <http://www.kokoro-tokyo.jp/>

「心の東京革命」とは、次代を担う子供たちに対し、親と大人が責任をもって正義感や倫理観、思いやりの心を育み、人が生きていくうえで当然の心得を伝えていく取組です。

- 心の東京革命行動プラン
<http://www.kokoro-tokyo.jp/about/plan.html>
- 心の東京塾 ～お母さん、お父さんのための子育て講座～
<http://www.kokoro-tokyo.jp/counsel/index.html>

心の東京革命 心の東京ルール ～7つの呼びかけ～

- 毎日きちんと挨拶させよう
- 他人の子供でも叱ろう
- 子供に手伝いをさせよう
- ねだる子供にがまんをさせよう
- 先人や目上の人を敬う心を育てよう
- 体験の中で子供をきたえよう
- 子供にその日のことを話させよう

子育てで困ったこんなとき（相談窓口一覧）

*乳幼児期からの子供の教育支援プロジェクトHPから

東京都の主な窓口

- **子供の学校生活や子育てについて悩んでいる**
東京都教育相談センター 電話 03-3360-8008
平日 午前9時から午後9時まで 土・日・祝日（年末年始除く）午前9時から午後5時まで
- **特別支援学校への入学・転学を相談したい**
東京都特別支援教育推進室 電話 03-5228-3433
午前9時から午後5時まで（土・日・祝日・年末年始除く）
- **子育てや子供の性格行動について悩んでいる**
東京都児童相談センター4152（よいこに）電話相談
電話 03-3366-4152 視覚言語障害者専用ファクシミリ 03-3208-1162
平日 午前9時から午後9時まで 土・日・祝日（年末年始除く）午前9時から午後5時まで
- **子供の心の健康について悩んでいる**
東京都立小児総合医療センターこころの電話相談室 電話 042-312-8119(相談室直通)
相談日 月～金曜日(祝日・年末年始を除く)午前9時30分～11時30分、午後1時～4時30分
- **子供の健康や妊娠中の健康について相談したい**
電話相談「母と子の健康相談室」
電話 #8000（プッシュ回線の固定電話・携帯電話） 03-5285-8898(左記以外の電話)
平日 午後5時から午後10時まで 土・日・祝日・年末年始 午前9時から午後5時まで
- **子育てや子供の事故防止について情報がほしい**
音声自動応答システム・ファクシミリによる情報提供「TOKYO子育て情報サービス」
電話 03-3568-3711

区市町村の主な窓口

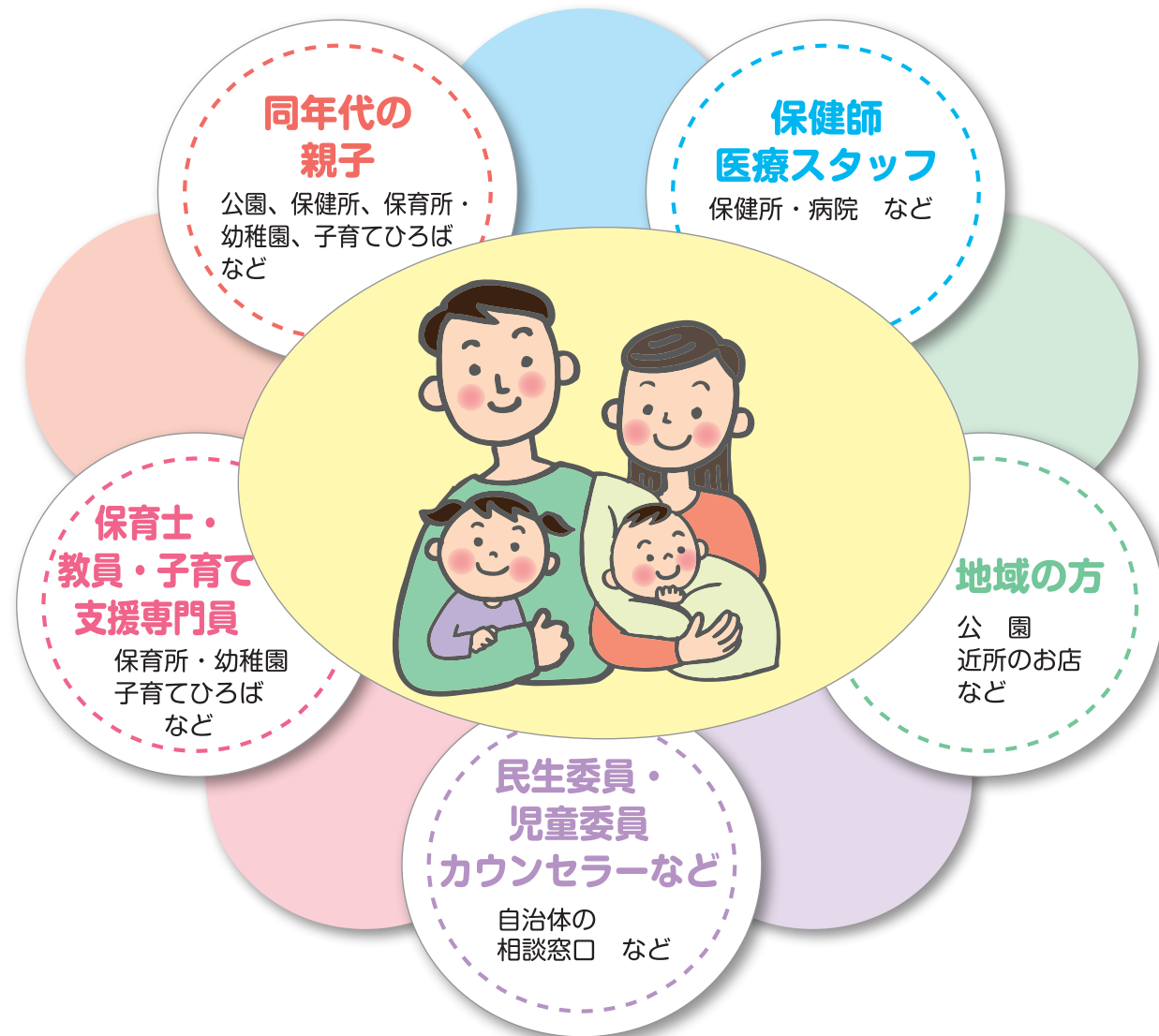
- **各区市町村の取組を知りたい、子育てひろばについて知りたい**
都内区市町村（HP一覧につながります） <http://www.metro.tokyo.jp/LINK/link1.htm>
- **子育てや子供のことで知りたい・相談したい、子供を一時的に預けたい**
子育て支援情報一覧
http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/kodomo/kosodate/ouen_navi/jouhou.html
子供家庭支援センター
http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/kodomo/kosodate/ouen_navi/center.html
- **子育てや、子供の発達などについて相談したい**
市町村保健センター http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/iryo/shisetsu/shiho_list.html
都保健所 http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/iryo/shisetsu/to_hoken/index.html
特別区保健所・保健センター http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/iryo/shisetsu/kuho_list.html
政令市保健所・保健センター（八王子市・町田市）
http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/iryo/shisetsu/seire_list.html

民生委員・児童委員の主な窓口

- **民生・児童委員の取組を知りたい、相談したい**
東京都福祉保健局 http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/kiban/sodan/minnsei_jidou/minsei.html
東京都民生児童委員連合会 <http://www.tominjiren.com/index.html>
都内区市町村主管課 http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/kiban/sodan/minnsei_jidou/itiran.html

つながって子育て

子育て中のあなたの周りには、たくさんの仲間や応援団がいます。
気軽に相談しながら、周囲の方の力も借りて、子育てをしていけるといいですね。



大人が変われば、子供が変わる
子供が変われば、未来が変わる

次代を担う子供に対し、親と大人が責任をもって正義感や倫理観、思いやりの心を育み、人が生きていく上で当然の心得を伝えていく取組です。

心の東京ルール

- 毎日きちんとあいさつさせよう
- 他人の子供でも叱ろう
- 子供に手伝いをさせよう
- ねだる子供にがまんをさせよう
- 先人や目上の人を敬う心を育てよう
- 体験の中で子供をきたえよう
- 子供にその日のことを話させよう



2020年 東京オリンピック・パラリンピック
お子さんは何歳になりますか？

1964年の東京大会、柔道の無差別級決勝で、オランダのアントン・ヘーシンクが日本の神永昭夫に、抑え込みで勝ちました。このとき、喜びのあまり畳の上にながろうとしたオランダの関係者を、ヘーシンクは直ちに制しました。礼を重んじ、相手を敬うという、武道の心を示した行動でした。

オリンピックでのアスリートの姿から、

- ルールを守るフェアプレー
- 精一杯自分の力を発揮すること
- 互いに尊敬すること

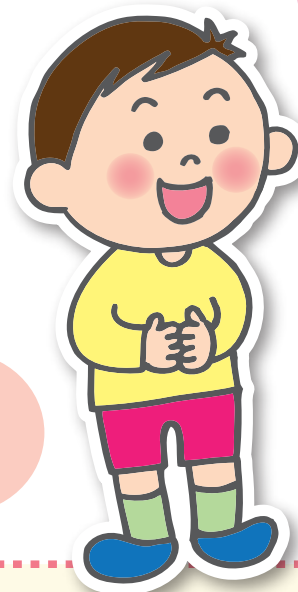
など、子供たちは多くのことを学び、心に刻むことでしょう。



小さな子供を育てていらっしゃる保護者のみなさんへ

きまりをまもる こころを育てる

～子供たちの規範意識を育むために～



- 規範意識とは、
「法令などの社会のルールの大切さを理解し、それらを守ろうとする意識」です。
- 大切なのは分かるけれど…
「大きくなってから、身に付いていくものなのでは？」
「決まりを守らせるには、いつも厳しくしなくてはいけない？」
- いえいえ、難しいことでも、厳しいだけのことでもありません。
小さな子供の規範意識の「芽」🌱は、
毎日の何気ない生活の中にたくさんあります。
- 規範意識の🌱を育むために、大人はどのように関わるとよいのでしょうか。
このリーフレットでは、保育所や幼稚園での**保育のコツ**を交えて、お知らせします。

「規範意識」の芽は このように育ちます

子供は、身近な大人に教えられたり、友達と遊ぶ中でけんかや仲直りなどを経験したりしながら、少しずつルールやマナーを身に付けていきます。発達に合わせて、上手に関わっていきましょう。



小学校入学



誕生



よい行動を教えることは、子供への大切な贈り物です。

※「お父さん」「お母さん」は、父母その他の保護者を表しています。

毎日の生活の中で

徐々に外の世界と関わる中で

同年代の友達と、一緒に遊んだり生活したりする中で

お父さん
お母さん※
大好き

お父さん
みたいに
になりたいな

お母さんが
言っているから、
きっとそうだ

いやだ！
自分のやり方が
いい！

ちゃんと
やったほうが
楽しいよ

心の
つながりを
育てる

手本を示す

教える
褒める

体験を通して
学ばせる

● 話しかけたりスキンシップを楽しんだりしながら、身近な大人との心のつながりを育てましょう。

● 子供は、信頼する大人の口調やしぐさをそっくりまねします。大人自身のふるまいを見直すチャンスでもあります。

● 大きな事故につながる危険な行為や、人を傷付ける言葉や行動など、いけないことは、本気で叱りましょう。
● 挨拶や我慢、その場に応じたふるまいなど、よい行動ができたときにしっかりと褒めましょう。
● 子供は失敗を繰り返しながら、ルールやマナーなどを学びます。失敗を前向きに受け止めて、体験から学ぶ姿勢を大切にしましょう。

こんなとき、
どうしたらいい？



「いやだ」「しぶんでやる！」
と言っでは、できずにくずります。車が来ているのに、構わずに走り出すこともあります。毎日毎日、疲れます…。

やってみよう！
プロの技

「おてて電車、トンネルくぐりまあす」
～その気にさせる～

袖にうまく手が通せずにくずっているときには、このひと言。手を取って、「袖トンネル」の途中までさりげなく入れてあげましょう。

「忍法、壁の術！」
～安全な行動を楽しく教える～

狭い道で車が来たときには、この言葉とともに、**子供と一緒に**ピタッと壁にくっつきます。

子供は楽しいことが大好き。大人も面白がって一緒にすることが、その気にさせる秘けつです。自分でできた喜びや自信が、子供の規範意識を支えます。

「魔法のメガネで、見てみようっと」
～よさを見付けて、褒める～

手で丸を作った「魔法のメガネ」を使って、子供の**よいところや頑張っていることを、たくさん見付けましょう**。
褒められたら、誰でもやる気になりますね。

「あ、ちょうちょ！」
～気分を変える～

子供は目の前のことで頭も心もいっぱい、切り替えが難しいものです。そんなときは、大人が**楽しそうに**、「あ、○○！」と気をそらしてみよう。
大きくなってきたら、「○○ちゃんはこうしたいのね。」と**気持ちを受け止める**、「お母さんは、△△してくれるとうれしいな。」と**大人の意見を伝える**などのことも大切です。

子育ては、思うようにならないことがたくさんあります。でも、大丈夫。みんなが通る道です。子供の「いやだ！」「自分で！」も、成長の姿の一つです。子供と一緒に喜んだり迷ったりしながら、自分らしい子育ての仕方を見付けましょう。

「さすが○○！」
～誇らしさを上手にくすぐる～

「さすが○○」には、子供の名前でも、「年長さん」でも。誇らしさを上手にくすぐって、**自立に向けて応援**しましょう。



◆ 就学前教育に関する資料（東京都教育庁指導部）

https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/school/document/pre_school/

※ 東京都教育委員会ホームページから、下記の指導資料を全て閲覧及びダウンロードできます。

- 「就学前教育プログラム」…………… 平成22年3月 東京都教育委員会
- 「就学前教育カリキュラム」…………… 平成23年3月 東京都教育委員会
- 平成21・22・23年度就学前教育プログラム及び就学前教育カリキュラム実証研究事業
 - ※1年次報告…………… 平成22年3月 東京都教育委員会
 - ※2年次報告…………… 平成23年3月 東京都教育委員会
 - ※3年次報告…………… 平成24年3月 東京都教育委員会
- 「就学前教育カリキュラム家庭用リーフレット」…………… 平成25年1月 東京都教育委員会
- 「就学前教育カリキュラム活用ハンドブック」…………… 平成25年3月 東京都教育委員会
- 「家庭用リーフレット
 - 『きまりをまもる こころを育てる』…………… 平成26年1月 東京都教育委員会
- 「幼児期の「規範意識の芽生え」の醸成 指導資料
 - 『きまりをまもる こころを育てる』…………… 平成26年3月 東京都教育委員会
- 安全教育プログラム…………… 平成25年3月 東京都教育委員会
http://www.kyoiku.metro.tokyo.jp/pickup/p_gakko/anzenkyoikuprogram.htm

◆ 乳幼児期からの子供の教育支援プロジェクト（東京都教育庁地域教育支援部）

<https://www.syougai.metro.tokyo.lg.jp/sesaku/nyuyoji.html>

〈保護者向け資料〉 <https://www.syougai.metro.tokyo.lg.jp/sesaku/document/protector/protector.html>

- 「乳幼児期を大切に ～心と体の基礎を育てるとき～」
- 生活リズム教材「そうだ、やっぱり早起き・早寝！」

〈指導者向け資料〉

- 指導者向け資料「乳幼児期を大切に 子供の発達の科学的知見と親の学習支援」
<https://www.syougai.metro.tokyo.lg.jp/sesaku/document/leader/leader01.html>
- 指導用スライド教材「乳幼児期を大切に ～心と体の基礎を育てるとき～」Ⅰ～Ⅶ
<https://www.syougai.metro.tokyo.lg.jp/sesaku/document/leader/leader02.html>

幼児期の「規範意識の芽生え」の醸成 指導資料作成委員会

委員長	黒澤 聡子	江東区立ちどり幼稚園長
学識	神長 美津子	國學院大學人間開発学部 教授
委員	米澤 千秋	文京区立第一幼稚園 主任教諭
	佐藤 多恵	台東区立根岸幼稚園 主任教諭
	佐伯 紀子	日野市立第三幼稚園 教諭
	多賀 真弓	学校法人淡島学園木内鳩の家幼稚園 教諭
	熊谷 朋子	新宿区立おちごなかい子ども園 保育士
	石川 千恵子	足立区立鹿浜こども園 保育士

なお、東京都教育委員会においては、次の者が本書の編集に当たった。

安間 英潮	指導部義務教育特別支援教育指導課長
赤堀 美子	指導部主任指導主事（幼児教育・環境教育担当）
河合 優子	指導部義務教育特別支援教育指導課統括指導主事
秋田 博昭	指導部義務教育特別支援教育指導課指導主事
永木 一郎	指導部義務教育特別支援教育指導課課務担当係長
貞方 功太郎	教職員研修センター研修部授業力向上課指導主事

きまりをまもるところを育てる

－幼児期の「規範意識の芽生え」の醸成 指導資料－

東京都教育委員会印刷物登録
平成25年度 第145号

平成 26 年 3 月

編集・発行 東京都教育庁指導部義務教育特別支援教育指導課

印刷会社 有限会社 川口プロセス社

